

令和5年度 老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

---

北海道内地方部の自治体における  
福祉・介護人材確保のための調査研究事業

---

報告書

令和6年3月

# 目次

第1章 研究概要 .....	1
1. 研究の背景・目的.....	1
2. 実施概要 .....	2
第2章 検討ワーキング及び検討委員会の開催.....	4
1. 検討ワーキングの開催.....	4
(1) 養成校ワーキング.....	4
(2) 受入れ先ワーキング.....	5
2. 検討委員会の開催.....	6
(1) 委員構成 .....	6
(2) 開催結果 .....	7
第3章 養成校を対象とした調査.....	8
1. 国の指針 .....	8
(1) 既存のソーシャルワーク実習指導・実習の概要.....	8
(2) 養成校側に求められる指導体制・環境の整備.....	9
(3) 実習施設に求められる指導体制・環境の整備.....	10
2. アンケート調査の概要.....	12
3. アンケート調査の結果.....	12
(1) 調査結果のまとめ.....	12
(2) 調査の主な結果.....	13
第4章 施設・事業所等を対象とした調査.....	19
1. 調査概要 .....	19
2. 調査結果 .....	19
(1) 調査結果のまとめ.....	19
(2) 調査の主な結果.....	20
第5章 地方自治体を対象とした調査.....	29
1. 調査概要 .....	29
2. 調査結果 .....	29
(1) 調査結果のまとめ.....	29
(2) 主な調査結果.....	30
第6章 地方部における学生のフィールドワークの実証.....	35
1. 実施概要 .....	35
(1) 実証地域の選定.....	35
(2) 学生の募集.....	36

2. 実施結果 .....	38
(1) 各地域の実施内容.....	38
(2) 事前オリエンテーションの実施.....	45
3. 事後アンケート調査.....	45
(1) アンケート調査の概要.....	45
(2) アンケート調査の主な結果.....	46
4. 事後インタビュー調査.....	52
(1) インタビュー調査の概要.....	52
(2) インタビュー調査の結果.....	52
5. 今回のフィールドワークの課題及び改善点.....	68
第6章 成果報告会の開催.....	69
1. 開催概要 .....	69
2. 開催結果 .....	70
3. 事後アンケート調査.....	71
第7章 まとめ .....	72
1. 今年度の実施結果.....	72
(1) 養成校の学生について.....	72
(2) 養成校について.....	72
(3) 実習プログラムについて.....	73
(4) 受入れ側について.....	74
2. 今後の展開 .....	75
(1) 学生に対する地方部への実習・就職への動機づけ手法の検討に向けた研究...	75
(2) 養成校のモチベーションを向上させる効果的な手法の検討に向けた研究.....	76
(3) 地方部を対象とした実習プログラムの作成に向けた研究.....	76
(4) 地方部を対象とした実習プログラムの受入れ体制整備の可能性検討.....	77
3. 今後の実証地域の選定について.....	78
(1) 若者や福祉分野の人材確保に取り組んでいる自治体.....	78
(2) 次年度の実証に参加意欲のある地域.....	79
資料編 .....	80
資料1 アンケート調査の集計結果.....	80
(1) 養成校を対象としたアンケート調査.....	80
(2) 社会福祉法人を対象としたアンケート調査.....	84
(3) 自治体を対象としたアンケート調査.....	97
資料2 アンケート調査票原本 .....	110

# 第1章 研究概要

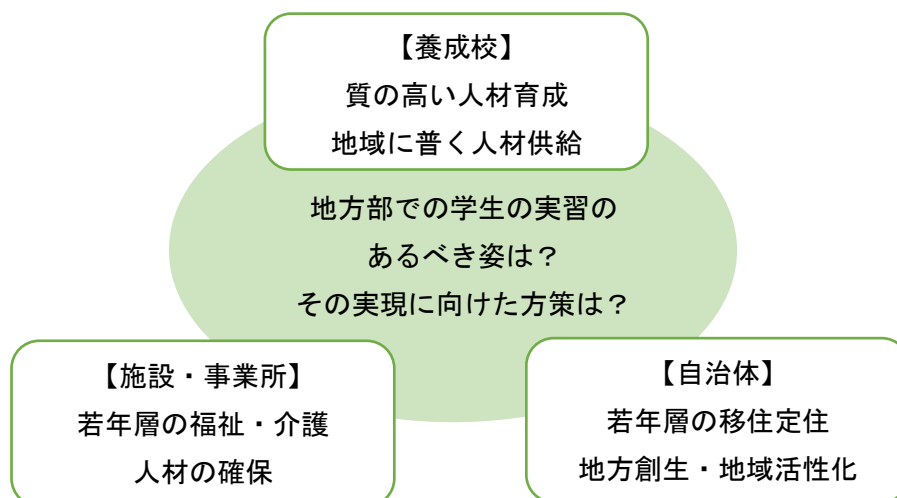
## 1. 研究の背景・目的

過疎・高齢化が進行している北海道内の地方部の自治体においては、慢性的な福祉・介護人材不足により、福祉サービスの安定的かつ持続的な提供が危ぶまれている。特に、若年層の福祉・介護人材の確保をめぐっては社会問題ともいうべき深刻な状況にある。

一方、近年では、若者の「ローカル」や「ソーシャル」志向が言われており、地方部における若者の移住・定住の事例も数多く散見されるが、福祉・介護分野では都市部に人材が集中している状況である。

- I. 養成校のカリキュラムや実施体制の問題から、地方部での実習機会が限定されている。
- II. 地方部の施設・事業所等における実習の受入体制が不十分である。
- III. 地方自治体において、地方創生やまちづくりの観点から福祉・介護人材を捉え、地域が一体となって若者の移住・定住を促進する取組が不十分である。

本研究は、上記 I II III という課題認識のもとで「質の高い人材育成」「地域に普く人材供給」を担う養成校と、「若年層の福祉・介護人材確保」が課題の地方部の施設・事業所、「若年層の移住・定住による地域活性化」を推進したい地方自治体が連携体制を構築し、それぞれの目的達成に繋がる地方部での学生の実習機会を創出のための現状と課題を把握し、今後求められる方策を検討することを目的とした。



## 2. 実施概要

上記の目的を達成するため、本研究では道内関係者で構成される検討委員会及び検討ワーキングを設置し、それぞれの視点から意見・アドバイスをいただきながら、道内養成校、道内施設・事業所等、道内地方自治体を対象としたアンケート調査を実施し、地方部5地域における学生のフィールドワークを実証した。

さらに本事業成果の普及を目的に、道内関係者向けの成果報告会を開催した。

### I 検討委員会・検討ワーキングの開催

本研究を円滑かつ効果的なものとするため、養成校や施設・事業所、自治体で構成される検討委員会及び養成校及び受入自治体・施設・事業所別に検討ワーキングを設置した。

検討委員会は、各検討ワーキングの参加メンバーを中心に構成し、各検討ワーキングでの検討内容や結果を共有し、それぞれの視点から意見・アドバイスを収集する場とした。

事業全体の企画・実施にあたっては、若年層の福祉・介護人材による福祉のまちづくりや地域共生社会の実現に向けて先進的な取組を実践している社会福祉法人ゆうゆう（北海道当別町、理事長大原裕介氏）及び厚生労働省で行われた社会福祉士養成課程の見直し作業（2018-2019年）や公益社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士実習指導者テキスト（2022年、新カリキュラム対応）の作成に関わり、現在、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局長である北星学園大学社会福祉学部教授の伊藤新一郎氏から、幅広い支援をいただいた。

### II 養成校を対象とした調査

社会福祉士養成の新カリキュラム案のねらいや教育に含むべき内容を十分精査した上で、北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校における地方部でのソーシャルワーク実習の実施状況と課題について明らかにし、今後、地方部でのソーシャルワーク実習の実施を推進するために必要な取り組みや方策を検討した。

### III 施設・事業所等を対象とした調査

道内社会福祉法人を対象に、社会福祉士養成にかかる実習生の受入れの実績や意向、問題点、課題等を把握し、今後の北海道地方部における社会福祉士の実習生の受入れを促進するための対応策を検討した。

### IV 地方自治体を対象とした調査

道内自治体における福祉・介護人材の確保に向けた取組状況や課題、福祉・介護人材をま

ちづくり推進人材として捉えた移住・定住施策の実施可能性などを把握し、養成校や施設・事業所等、自治体（まちづくり政策部署＋福祉介護関連部署）が連携し、地方部における福祉・介護人材の受入れや定着を促進するための方策について検討した。

## V 地方部における学生のフィールドワークの実証

2023年8月下旬～9月中旬において、社会福祉士を目指している大学生（34名）を対象に、道内5地域（夕張市、喜茂別町、和寒町、浦河町、京極町）におけるフィールドワークを実施した。

参加学生におけるフィールドワークに対する満足度や課題を把握したとともに、フィールドワーク前後における地方部での就労や暮らしに対する学生の意識の変化を確認した。

これにより、地方部の福祉・人材確保の促進に向けた送り側（学生及び養成校）や実習先の受入れ側（自治体及び施設・事業所等）の課題等を整理した。

## VI 成果報告会の開催

本研究の成果を報告し、社会福祉士等を目指す若者の地方部での実習機会の拡大に向けた地方自治体や介護・福祉施設等の受入れ先、養成校における機運醸成を図るとともに、こうした取組を通じた地方創生や地域共生の推進可能性について考えることを目的に、道内の自治体や介護・福祉施設、養成校教員・学生等を対象とした成果報告会を開催した。

## 第2章 検討ワーキング及び検討委員会の開催

### 1. 検討ワーキングの開催

#### (1) 養成校ワーキング

##### ①委員構成

社会福祉士・精神保健福祉士の養成校教員を中心に委員を選定した。

所属・役職	氏名
北星学園大学社会福祉学部・教授	伊藤 新一郎
北星学園大学社会福祉学部社会福祉学科・准教授	畑 亮輔
北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科・准教授	宮本 雅央
北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科・助教	片山 寛信
北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科・助教	鈴木 和
北海道教育大学教育学部（函館校）国際地域学科・教授	齋藤 征人
星槎道都大学社会福祉学部社会福祉学科・准教授	畠山 明子
北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科・講師	吉田 竜平

##### ②開催結果

###### 【第1回開催概要】

開催目的	本研究の概要と目的を共有し、ソーシャルワークの実習について、養成校側の現状や課題を共有したうえ、学生のフィールドワークの実施に関する意見交換を行うこと
開催日時	2023年7月11日（火）19:00～21:00
開催方法	オンライン（Zoom）
開催内容	(1) 開会 (2) 本調査研究事業について ① 調査事業の概要 ② 道内地方部における福祉職場等における短期インターンシップ事業実施要領 (3) 意見交換 (4) 閉会

## 【第2回開催概要】

2023年8月末～9月上旬に、フィールドワークに参加した学生向けのアンケート調査の実施内容に関する意見を収集した。

## (2) 受入れ先ワーキング

### ①委員構成

今年度のフィールドワーク実証の協力自治体や施設・事業所を委員に選定した。

所属・役職	氏名
京極町社会福祉協議会 事務局長	駒田 拓朗
一般社団法人らぷらす 代表理事	安斉 尚朋
社会福祉法人浦河べてるの家 事務局長	池松 麻穂
和寒町保健福祉課 課長補佐 地域包括支援センター管理者	酒井 香奈子
和寒町保健福祉課 主幹	諸戸 孝史
喜茂別町元気応援課 包括支援係 保健師	齊藤 麻実
喜茂別町元気応援課 福祉係 社会福祉士・介護福祉士	長谷川 悟
京極町社会福祉協議会 事務局長	駒田 拓朗

### ②開催結果

#### 【開催概要】

開催目的	学生のフィールドワークの実施結果を共有し、課題を洗い出すこと
開催日時	2023年11月2日(木) 10:00～12:00
開催方法	オンライン (Zoom)
開催内容	(1) 開会 (2) フィールドワークの実施結果 ① フィールドワークの実施概要 ② 学生を対象としたアンケート・グループインタビュー調査結果 (3) 意見交換 ① 各地域における福祉・介護人材の確保に向けた現状・課題 ② フィールドワークの実施成果、課題 ③ 次年度以降のフィールドワークの実施内容・方法 (4) その他 (5) 閉会



## 2. 検討委員会の開催

### (1) 委員構成

検討ワーキングの委員を中心に選定した。

所属・役職	氏名
北星学園大学社会福祉学部・教授	伊藤 新一郎 (委員長)
北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科・講師	吉田 竜平
社会福祉法人京極町社会福祉協議会 事務局長	駒田 拓朗
社会福祉法人京極町社会福祉協議会 職員	後藤 龍太郎
一般社団法人らぷらす 代表理事	安斉 尚朋
社会福祉法人浦河べてるの家 事務局長	池松 麻穂
和寒町保健福祉課 課長	山口 祐樹
和寒町保健福祉課 主幹	諸戸 孝史
喜茂別町元気応援課 包括支援係 保健師	齊藤 麻実
喜茂別町元気応援課 福祉係 社会福祉士・介護福祉士	長谷川 悟

#### 【オブザーバー】

所属・役職	氏名
厚生労働省北海道厚生局健康福祉部地域包括ケア推進課・課長	櫻田 薫
厚生労働省北海道厚生局健康福祉部地域包括ケア推進課・地域包括ケア推進官	長内 隆彦
厚生労働省北海道厚生局健康福祉部地域包括ケア推進課・医療介護連携推進係	松本 颯馬

#### 【事務局】

所属・役職	氏名
社会福祉法人ゆうゆう・理事長	大原 裕介
社会福祉法人ゆうゆう企画推進部・部門長	石川 あゆみ
社会福祉法人ゆうゆう企画推進部	世戸口 瑞友
(株) 北海道二十一世紀総合研究所調査研究部長	河原 岳郎
(株) 北海道二十一世紀総合研究所調査研究部研究員	劉 曉萃

## (2) 開催結果

### ①第1回検討委員会

#### 【開催概要】

開催目的	アンケートの実施結果を共有し、今年度の成果と課題を検討すること
開催日時	2024年2月16日（金）14：00～15：30
開催方法	オンライン（Zoom）
開催内容	(1) 開会 (2) アンケート調査について ① アンケート調査の実施概要と実施結果 ② 意見交換 (3) 成果報告会について ① 成果報告会（案） ② 意見交換 (4) その他 (5) 閉会

### ②第2回検討委員会

#### 【開催概要】

開催目的	次年度の方向性についての検討
開催日時	2024年3月8日（金）14：00～15：30
開催方法	オンライン（Zoom）
開催内容	(1) 開会 (2) 次年度の計画について ① 次年度の計画についての報告 ② 意見交換 (3) 今年度事業の成果報告会の開催について (4) その他 (5) 閉会

## 第3章 養成校を対象とした調査

### 1. 国の指針

#### (1) 既存のソーシャルワーク実習指導・実習の概要

国の指針に基づいた既存のソーシャルワーク実習指導・実習の概要は次の通り。

主な目的	(ア) ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 (イ) 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 (ウ) 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 (エ) 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 (オ) 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について」（令和2年3月6日）
実施要件	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 240 時間分の実習を機能の異なる2ヵ所以上の実習施設等で行うこと。</li><li>・ いくつかの条件を満たす独立型社会福祉士事務所であること。</li><li>・ 実習指導者は、社会福祉士の資格を取得した後、相談援助の業務に3年以上従事した経験を有する者であって、科目省令第4条第7号に規定する講習会の課程を修了したものであること。</li></ul>
主な対象者	2年生、3年生
実施期間	240 時間以上
主な内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 相談援助業務の一連の過程の学習</li><li>・ 複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた包括的な支援の学習</li></ul>

## (2) 養成校側に求められる指導体制・環境の整備

地方部における若者の福祉人材の実習を実施する際の養成校側の体制整備の項目について、既存のソーシャルワーク実習指導・実習に求められる内容が次の通り。

- I. 養成校と実習施設・機関等の連携・協働におけるマネジメント（実習施設・機関との契約等の取り交わし）
  - i. 実習契約・協定
  - ii. 休暇・火災発生に関する手続き
- II. 養成校内のマネジメント（実習依頼や実施決定等の責任と判断を行う実習指導体制の形成）
  - i. 受験資格を満たすことの確認
  - ii. 実習生として正しく義務を果たして権利を擁護する
  - iii. 実習の緊急時対応
- III. 利用者のプライバシーの保護と守秘義務を指導すること
- IV. 実習指導者との連絡体制
- V. ICT を活用した連絡体制の構築
- VI. 実習の展開過程における指導体制・環境整備
- VII. 実習前に実習生の適性測定やモチベーションの確認
- VIII. 実習指導担当教員による実習前の事前指導の実施、実習施設・機関との調整
- IX. 実習中における巡回指導の実施、教員の指導を受ける「帰校日」の設定、実習発表会の実施
- X. 実習後、実習報告会、実習評価、キャリア形成の支援
- XI. トラブルへの対応

出典：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟「ソーシャルワーク実習指導・実習のための教育ガイドライン（2021年8月改訂版）」

### (3) 実習施設に求められる指導体制・環境の整備

地方部における若者の福祉人材の実習を行う際の受入側に求められる体制整備の項目について、既存のソーシャルワーク実習指導・実習に求められる内容は次の通り。

- |  |
|--|
| <p>I. 受け入れ体制</p> <ul style="list-style-type: none"><li>i. 実習生の受け入れについて、その意義を共有し、組織内での合意形成を図る。<br/>【共通】</li><li>ii. 実習生に対する実習指導体制を定め、それぞれの担当範囲と役割を明確にする。<br/>【共通】</li><li>iii. 実習指導に必要な多職種・職員の協力を得られるよう、組織内の調整を図る。<br/>【共通】</li><li>iv. 実習プログラムを組織内で周知する。【共通】</li><li>v. 地域での泊まり込み実習では、実習指導者から事前訪問時に生活環境や宿泊場所等の地域特性について十分な説明を行う。【施設等宿泊型】【地域滞在型】</li><li>vi. 実習生が滞在する地域の自治会長やご近所等に実習についての説明を行うとともに、理解を得ながら受入れ体制を整える。【地域滞在型】</li></ul> <p>II. 職員間の意識の共有</p> <ul style="list-style-type: none"><li>i. 実習に関して多職種・職員の協力を得られるよう、組織内の調整を図る。【共通】</li><li>ii. 実習生を迎えるに当たって「2 以上の実習施設において実習する」という前提で他実習施設との実習指導体制や環境整備等についての情報の共有化を行っておく。特に厚生労働省が示しているソーシャルワーク実習の教育に含むべき事項の10項目をどのように分担して2ヵ所での実習内容に反映するのかを調整しておく。【共通】</li><li>iii. 「地域課題を把握して解決を試みる体制の構築に必要なソーシャルワークの機能を学ぶ」ためにも、地域の社会資源との実習の事前説明と理解を得ておく。<br/>【共通】</li><li>iv. 実習生に関する個人情報の漏洩防止及び対応を行う。【共通】</li></ul> <p>III. 交通手段</p> <ul style="list-style-type: none"><li>i. 実習施設までの交通方法、順路、所要時間の情報の提供を行うとともに、実際の交通手段について確認をしておく。【共通】</li><li>ii. 実習生が自動車を使用したい場合は、事前に養成校や実習機関内調整を行う。<br/>【共通】</li><li>iii. 宿泊を伴う実習で実習生が自動車を使用する場合、駐車場調整を行う。【施設等宿泊型】【地域滞在型】</li><li>iv. 通勤中の事故が発生した場合の対応について連絡方法等の事前確認をしておく。【共通】</li></ul> <p>IV. 実習中の食事</p> |
|--|

- i. 実習施設での食事の方法について説明を行う。利用料金が必要な場合は事前に説明をしておく。【共通】
  - ii. 昼食場所と時間等についても事前に説明を行う。【共通】
  - iii. 実習施設の給食を利用する場合は、食物アレルギー等の情報を確認しておく。【共通】
- V. 休憩・実習スペース
- i. 休憩・自習スペースについて、事前訪問時等で説明を行う。【共通】
  - ii. 休憩所における、各自の持ち物の管理方法について説明する。ロッカー(鍵を含む)についての管理や清掃(清潔)、紛失等への注意を促す。【共通】
  - iii. 自習において、パソコン等の機材使用が可能か説明を行う。【共通】
  - iv. ICT を活用したコミュニケーションツールを活用する場合には、通信状況やWi-Fi の利用が可能か等を事前に確認しておく。【共通】
- VI. 宿泊先について
- i. 事前に宿泊場所や環境について、実習生や実習指導担当教員に見学してもらい理解を得ておく。(大家さん、ご近所さんへの紹介)【施設等宿泊型】【地域滞在型】
  - ii. 家賃(部屋代)や光熱水費について事前に実習生と実習指導担当教員へ説明を十分に行う。【施設等 宿泊型】【地域滞在型】
  - iii. 食料品購入場所や病院、金融機関等の生活に関わる情報を提供する。【施設等宿泊型】【地域滞在型】
- VII. 合理的配慮
- i. 養成校から障がい特性に合わせた合理的配慮について相談があった場合、実習の指導体制や環境整備について調整する。【共通】
  - ii. ②ソーシャルワーク実習では、実習の現場に、安全で効果的な福祉サービスや支援を必要としているクライアントがいる。このことを踏まえ、実習施設が実施している事業やサービスを実習プログラムとして設定した際、実習生がどのように学習に取り組むことができるのか、その可能性も含めて実習生と丁寧に一つひとつ確認する必要がある。【共通】
- VIII. その他
- i. 宿泊型の実習は、実習活動中とプライベートの境が分かりにくくなるので施設利用者への配慮や休日の過ごし方について説明して理解を得ておく。
  - ii. 地域滞在型実習は、地域に入り込んでの泊まり込み生活体験実習であり、2人～4人同時での実習が想定される中で共同生活という点からも、体調管理には充分配慮するとともに、実習生と充分話し合っって柔軟に環境整備も整える。また、実習生が生活する地域の自治会長や住民との関係調整にも充分配慮をする。

出典：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟「ソーシャルワーク実習指導・実習のための教育ガイドライン (2021年8月改訂版)」

## 2. アンケート調査の概要

北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校における地方部でのソーシャルワーク実習の実施状況と課題について明らかにし、今後、地方部でのソーシャルワーク実習の実施を推進するために必要な取り組みや方策を検討することを目的とし、北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校を対象としたアンケート調査を実施した。

### 【実施概要】

実施期間	2023年12月20日（水）～2024年1月12日（金）
実施方法	Eメール
配布数	12校
回収数	14件（9校、そのうち社会福祉士課程8件、精神保健福祉士課程6件）
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学校の基本情報</li><li>・ 2023年度ソーシャルワーク実習を依頼している実習施設の所在地</li><li>・ 養成校が所在する地域から遠方の地方部においてソーシャルワーク実習を実施している／実施していない理由</li><li>・ 養成校として地方部におけるソーシャルワーク実習を実施するために必要な条件</li><li>・ 地方部におけるソーシャルワーク実習の実施の意義</li></ul>

## 3. アンケート調査の結果

### (1) 調査結果のまとめ

#### 【アンケート調査結果のまとめ】

- ・ 道内養成校におけるソーシャルワークの実習先について、養成校が近隣市町村の実習施設に依頼する傾向がある。
- ・ 2023年度における各振興局の実習者数は、石狩振興局管内が310名等、上川総合振興局が126名、その他の振興局がいずれも25名以下となっている。
- ・ 養成校が所在する地域から遠方の地方部に実習を実施している理由については、学生の帰省先であることが最も多く、実施していない理由については、養成校の周辺での実習施設の確保に困っていないことが最も多くなっている。
- ・ 一方、地方部における実習を実施する意義について、学生が卒業後に地方部で就職する可能性について検討するきっかけとなることや、地方部における福祉人材の確保に寄与できること、学生がその地域ならではの実践等の有意義な学びを得ることができることに賛同している回答が半分となっている。

## (2) 調査の主な結果

### ①2023年度におけるソーシャルワーク実習の実施状況

振興局	市町村	学校名	養成課程	ソーシャルワーク実習の履修者数(2023)	2023年度実習施設の所在地		
					札幌市内	札幌市近郊	その他
石狩 (10件)	札幌市	A校	社会福祉士	59名	82名	33名	函館市(1名)、室蘭市(1名)、伊達市(1名)、音更町(1名)、旭川市(4名)、北斗市(1名)、北見市(2名)、砂川市(1名)、稚内市(2名)、函館市(1名)、深川市(1名)、伊達市(1名)、京極町(1名)
			精神保健福祉士	10名	12名	0名	苫小牧市(2名)、北見市(2名)、名寄市(2名)、登別市(1名)、帯広市(1名)
		B校	社会福祉士	17名	29名	1名	滝川市(1名)、苫小牧市(2名)、登別市(1名)
			精神保健福祉士	3名	3名		
	江別市	C校	精神保健福祉士	14名	16か所	4か所	美瑛市(1か所)、苫小牧市(2か所)、帯広市(2か所)、北見市(2か所)
		D校	社会福祉士	10名	5名	5名	
	北広島市	E校	社会福祉士	25名	8名	10名	室蘭市(2名)、伊達市(1名)、喜茂別町(1名)、黒松内町(1名)、旭川市(2名)
			精神保健福祉士	14名	6名	2名	釧路市(3名)、室蘭市(3名)、浦河町(1名)、旭川市(1名)
	当別町	F校	社会福祉士	86名	65名	10名	当別町(4名)、室蘭市(3名)、美瑛町(2名)、旭川市(2名)
			精神保健福祉士	19名	22名	3名	当別町(1名)、室蘭市(2名)、苫小牧市(1名)、倶知安町(1名)、浦河町(2名)、登別市(2名)、帯広市(2名)、北見市(2名)
上川 (3件)	名寄市	G校	社会福祉士	49名	3名	3名	富良野市(29名)、名寄市(12名)、士別市(5名)、美深町(5名)、猿払村(5名)、紋別市(4名)、美瑛町(4名)、旭川市(7名)、滝川市(1名)、和寒町(3名)、帯広市(3名)、美瑛市(4名)、北見市(3名)、芦別市(4名)、幕別町(1名)、鷹栖町(1名)
			精神保健福祉士	13名	2名	0名	滝川市(1名)、砂川市(1名)、当別市(1名)、室蘭市(1名)、登別市(1名)、浦河町(1名)、旭川市(2名)、名寄市(2名)、富良野市(1名)、帯広町(1名)、釧路市(1名)
	旭川市	H校	社会福祉士	38名			旭川市(24名)、富良野市(4名)、鷹栖町(6名)、美瑛町(2名)、士別市(2名)
渡島 (1件)	函館市	I校	社会福祉士	14名	0名	0名	函館市(14名)

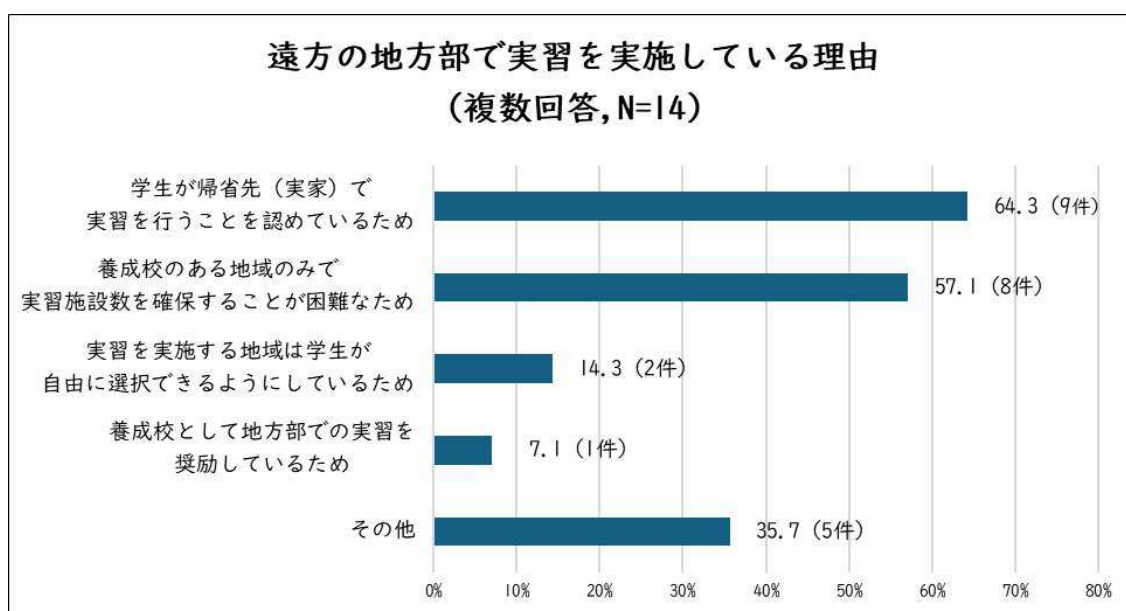


【2023 年度におけるソーシャルワーク実習の実施先分布図】



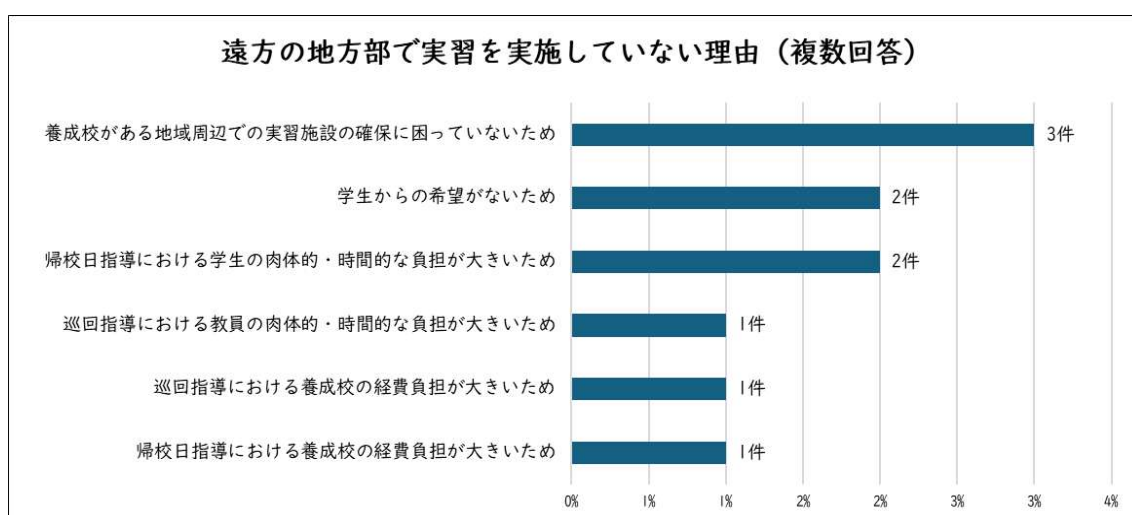
②地方部においてソーシャルワーク実習を実施している理由

養成校が所在する地域から遠方の地方部においてソーシャルワーク実習を実施している理由について、「学生が帰省先（実家）で実習を行うことを認めているため」が 64.3%（9 件）と最も多く、次いで「養成校のある地域のみで実習施設数を確保することが困難なため」が 57.1%（8 件）となっている。



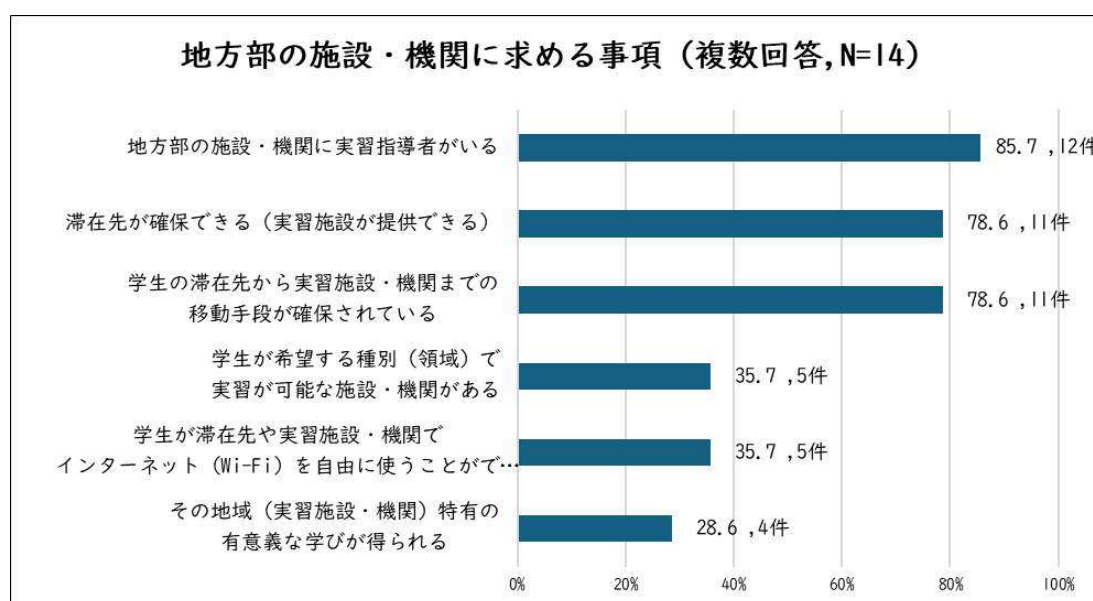
### ③ 地方部においてソーシャルワーク実習を実施していない理由

養成校が所在する地域から遠方の地方部においてソーシャルワーク実習を実施していない理由について、「養成校がある地域周辺での実習施設の確保に困っていないため」が3件と最も多く、「学生からの希望がないため」と「帰校日指導における学生の肉体的・時間的な負担が大きいため」がともに2件となっている。



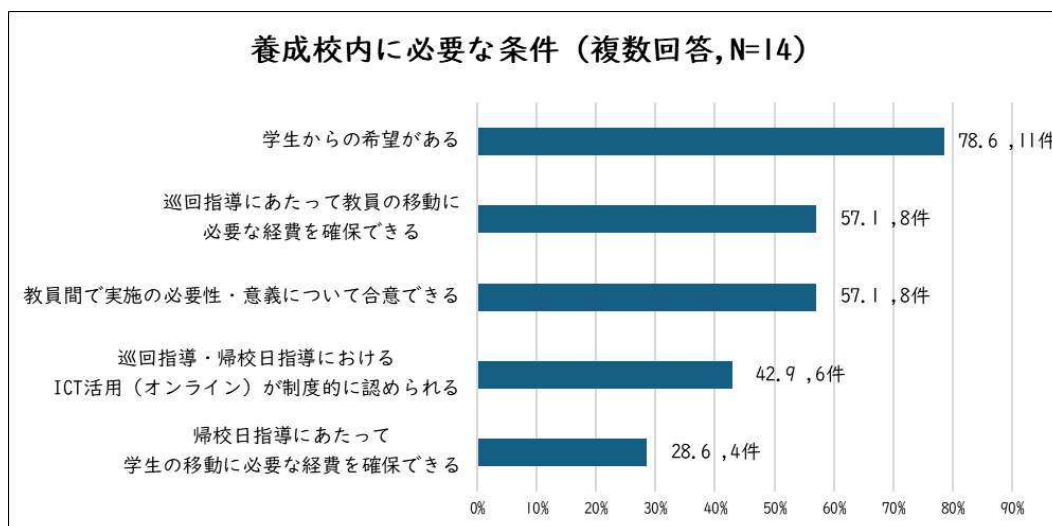
### ④ 地方部の施設・機関に求める事項

地方部においてソーシャルワーク実習を実施するために、養成校として地方部の施設・機関に求める事項について、「地方部の施設・機関に実習指導者がいる」が85.7%（12件）と最も多く、次いで「滞在先が確保できる（実習施設が提供できる）」と「学生の滞在先から実習施設・機関までの移動手段が確保されている」がともに78.6%（11件）となっている。



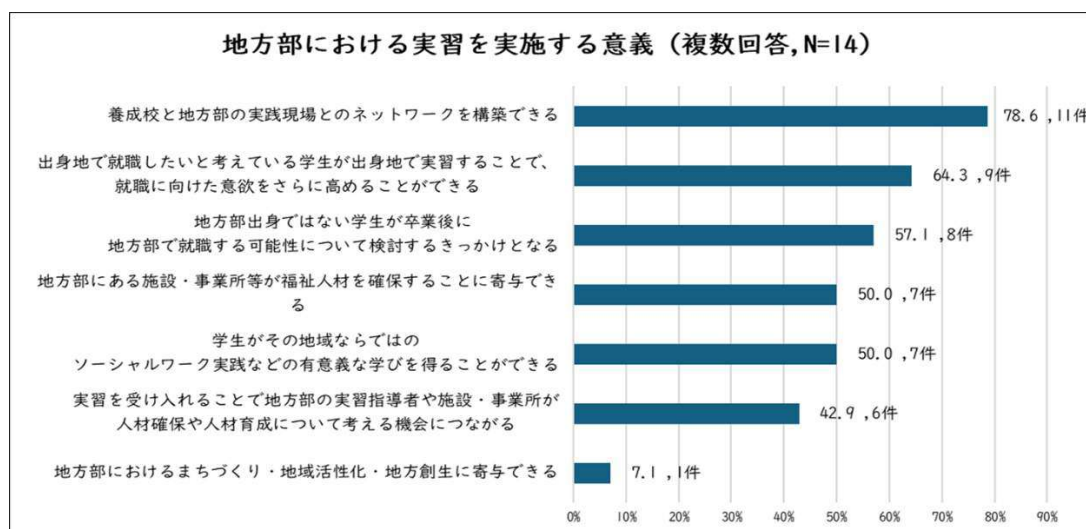
### ⑤養成校内に必要な条件

地方部においてソーシャルワーク実習を実施するために、養成校内に必要な条件について、「学生からの希望がある」が78.6%（11件）と最も多く、次いで「巡回指導にあたって教員の移動に必要な経費を確保できる」と「教員間で実施の必要性・意義について合意できる」がともに57.1%（8件）となっている。



### ⑥地方部におけるソーシャルワーク実習の実施の意義

養成校の立場からみた地方部におけるソーシャルワーク実習の実施の意義について、「養成校と地方部の実践現場とのネットワークを構築できる」が78.6%（11件）と最も多く、次いで「出身地で就職したいと考えている学生が出身地で実習することで、就職に向けた意欲をさらに高めることができる」が64.3%（9件）、「地方部出身ではない学生が卒業後に地方部で就職する可能性について検討するきっかけとなる」が57.1%（8件）となっている。



## ⑦地方部におけるソーシャルワーク実習についての意見・要望

### 【No. 1（養成課程：社会福祉士）】

- ・ 充実したソーシャルワーク実践が行える機会を提供することが重要であり、場所に制限はしたくないが、あまり遠方であると移動等の負担が生じるため難しい部分は否めない。限られた教員数における巡回の限界にもつながってしまう。

### 【No. 2（養成課程：社会福祉士）】

- ・ 経費や時間等の負担と ICT 活用等よりも、「有意義な学び」ができるかどうか、配属検討のウェイトを占めているが、地方部の社会福祉士の実践を十分に把握できていない可能性もあると認識している。このため、興味深い実践をなされている実践者の情報提供などをいただくと非常に助かる。
- ・ 学生から、実家から通いたいという希望が、配属検討時に出るが、この理由だけで実習教育を継続するには至らず中止となる場合もある。地方部の実践の魅力を教員が解説し「有意義な学び」を創出するために、教員が地方部に出向き学ぶ機会を得るための経費補助などを含む仕組みがあると良いかもしれない。
- ・ 「実習経験に伴う就職（人材確保）への影響」について、実習以外の経験でも、学生にとって興味深い経験ができると就職にはつながっている。ただし、学生にとって、一般企業、教職・介護・精神・SSW など多様な選択肢があるため、「興味深さ」がより大きなものでなければ、就職行動につながらなくなっていると感じる。このため、就職を考えるのであれば、実践、実践者、地域の魅力といった内容（質）を、実習か否かは問わず、如何に認識させるかが重要となってくると考える。学生の行動を促進するためには、経費、時間などの検討要素が少ない方が行動につながりやすいという側面はあろうかと思う。
- ・ 実習教育を組み立てる上では、実習期間以外での実習施設・機関との心理的・物理的アクセスのしやすさも考慮している。巡回指導・帰校日指導における ICT 活用（オンライン）は、地方部での実習を進める上でのひとつの要素ではあるものの、「養成校の近くの実習先ではないが、行って良かった」となる魅力を共有できることが地方部でのソーシャルワーク実習を継続的に行う上でのカギになると考えている。

### 【No. 3（養成課程：社会福祉士）】

- ・ 教員の訪問指導との兼ね合いから養成校がある札幌近郊での実習を基本としているが、訪問指導がオンラインで行えるようになることで、学生の出身地（実家）での実習や U ターン就職の可能性が高まるように思う。ただ、地方部で実習を実施しようとした際に、実習指導者要件を満たす実習先の確保に苦慮したこともあるので、地方部におけるソーシャルワーク実習を行うためには、実践現場における実習受入体制の整備が必要であると思う。

【No. 4（養成課程：精神保健福祉士）】

- ・ 教員の訪問指導との兼ね合いから養成校がある札幌近郊での実習を基本としているが、札幌近郊の精神科医療機関・クリニックだけでは実習受け入れに限界があり、履修者数によっては実習先の確保に大変苦慮する年度がある。そのため、オンラインでの訪問指導が制度的に認められることで、実習生の出身地（実家）での実習可能性や実習先選択肢の幅が広がり、より充実した実習展開や実践現場の負担軽減にもつながると思うため、精神保健福祉士養成にかかる実習においても状況に応じたオンラインでの訪問指導を制度的に認めていただきたい。

【No. 5（養成課程：社会福祉士）】

- ・ 養成校が札幌市内・近郊以外に所在している場合、そもそも「地方部」での実習が行われていると理解することもできるのではないかと。ただ、それがどの程度「就職」（養成校所在地に残留あるいは北海道内の地方部の自治体への就職）に繋がっているかは別のこともかもしれない。
- ・ 札幌市内・近郊に所在する養成校の場合、入学者数の減少により以前ほど実習施設の確保に困るということが少なくなっている実態があると思う。そのような状況の中で、学生を地方部に実習で送り出すためには、養成校の教育理念や社会的使命をどう考えているか、という点に大きく影響を受けるものと思われる。
- ・ 私立大学（の福祉系学部・学科）においては少子化のために、一部の有名大学を除いて（全国的に）年々入学者の確保が厳しくなっており、それは経営に直結するため、学内的に金銭のみならず様々な「コスト」を要する事項に対する風当たりは強くなっているかもしれない。そのため、地方部での実習を拡大していくには、各養成校の経営層の理解も必要で、「養成校にとってのメリット」を示すことができることも必要という発想もあってよいのではないかと思う。

## 第4章 施設・事業所等を対象とした調査

### 1. 調査概要

社会福祉士養成にかかる実習生の受入れの実績や意向、問題点、課題等を把握し、今後の北海道地方部における社会福祉士の実習生の受入れを促進するための対応策を検討することを目的に、道内社会福祉法人を対象としたアンケート調査を実施した。

#### 【実施概要】

実施期間	2023年12月19日（火）～2024年1月7日（日）
実施方法	郵送
配布数	589件
回収数	198件（33.6%）
有効回答数	145件
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>法人の概要（事業所の種別、従業員数、事業所の所在地、直近3年間の社会福祉士の新卒採用者数、社会福祉士の在職状況）</li><li>社会福祉士の実習生を受入れた実績</li><li>道内地方部における学生の実習に関する考え等</li></ul>

※有効回答数：保育所（園）や認定子ども園等の保育事業のみ運営している社会福祉法人を除いた数

### 2. 調査結果

#### (1) 調査結果のまとめ

##### 【アンケート調査結果のまとめ】

- 道内の事業所で社会福祉士の実習生を受入れた実績について、全体では2割強だが、事業所の所在地別でみると、札幌市が半分近く、さっぽろ圏が3割程度、その他の道内市町村が1割強しかない。実習生を受入れてない理由について、実習指導者がいないことや受入れ体制が整っていないことが大半である。
- また、その他の道内市町村では、社会福祉士の実習生の受入れに関するルールを「ま

まったく知らない」事業所が半分近く、「実習指導者講習会修了者がいない」事業所が8割強となっている。

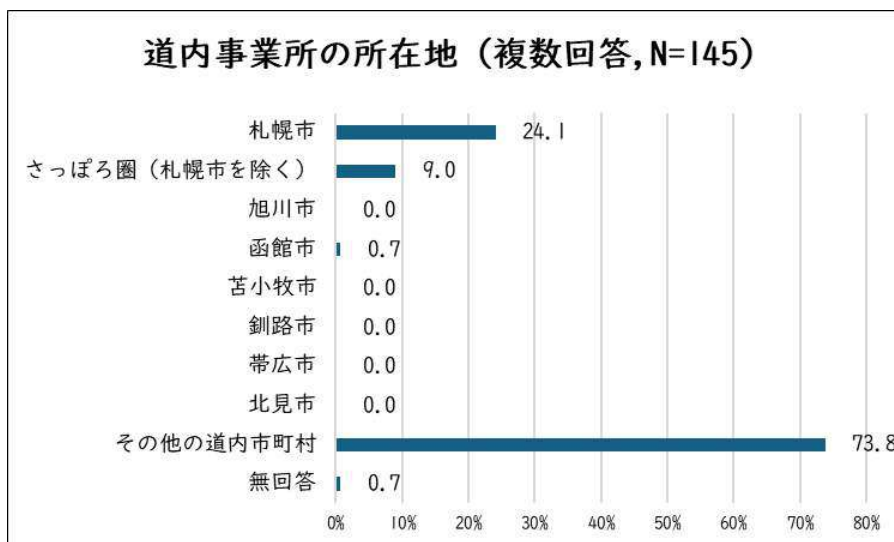
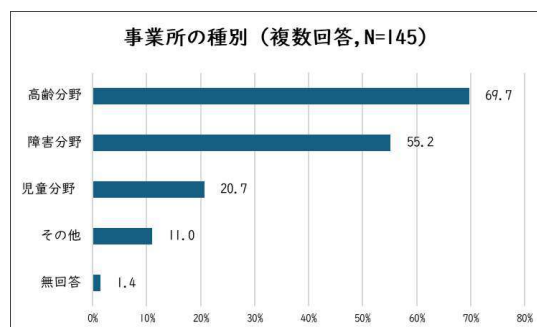
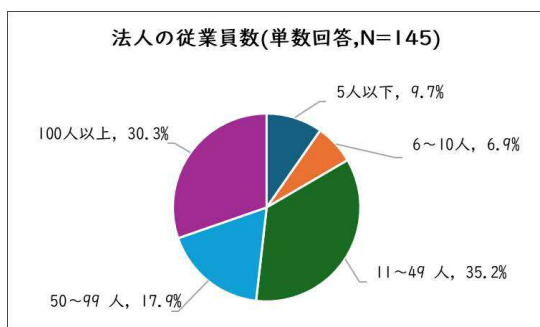
- 一方、地方部で社会福祉士の実習生を受入れる必要性や今後受入れる意志について、札幌市やさっぽろ圏より、その他の道内市町村では、前向きな回答数が多くなっている。具体的には、受入れが必要だと回答した数が9割近く、今後地方部で社会福祉士を「ぜひ受入れたい」や条件次第で「検討したい」と回答した数が半分以上となっている。

※さっぽろ圏とは、札幌市、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町を含む（以下同様）。

## (2) 調査の主な結果

### ①回答者の属性

回答者の属性について、法人の従業員数は「11～49人」が35.2%と最も多く、次いで「100人以上」が30.3%となっている。事業所の種別は「高齢分野」が7割近く、「障害分野」が半分、「児童分野」が2割となっている。道内事業所の所在地は「その他の道内市町村」が7割強と最も多く、「札幌市」が2割強、「さっぽろ圏」が1割未満となっている。



## ②社会福祉士の新卒採用者の採用実績

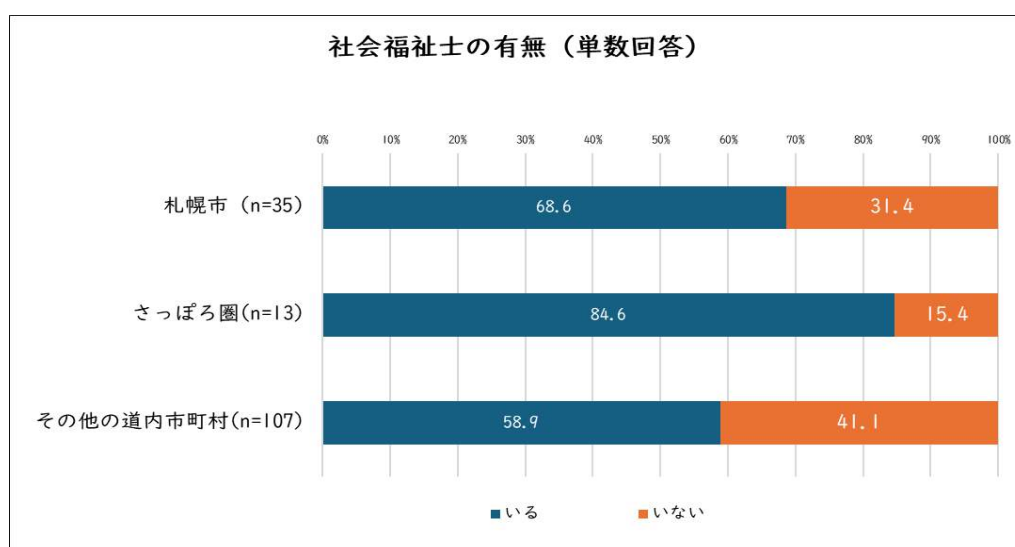
直近 3 年間における社会福祉士の新卒採用者の採用実績について、社会福祉士の新卒採用者を採用したことがある事業所は、「札幌市」が 6 件 (17.1%)、「さっぽろ圏」が 1 件 (7.7%)、「その他の道内市町村」が 6 件 (5.6%) となっている。

事業所所在地	社会福祉士の 新卒採用者が いる	社会福祉士の 新卒採用者	社会福祉士の 新卒採用者回 答数	そのうち、 実習を終えた 方の回答数
札幌市 (n=35)	6 件 (17.1%)	1 名	3 件	2 件
		2 名	2 件	0 件
		4 名	1 件	0 件
さっぽろ圏 (n=13)	1 件 (7.7%)	1 名	2 件	0 件
その他の道内市町村 (n=107)	6 件 (5.6%)	1 名	6 件	1 件

※苫小牧市、釧路市、帯広市、北見市、旭川市の回答者数が 0 件、函館市の回答者数が 1 件となっているため、詳細を割愛する。

## ③社会福祉士の在籍状況

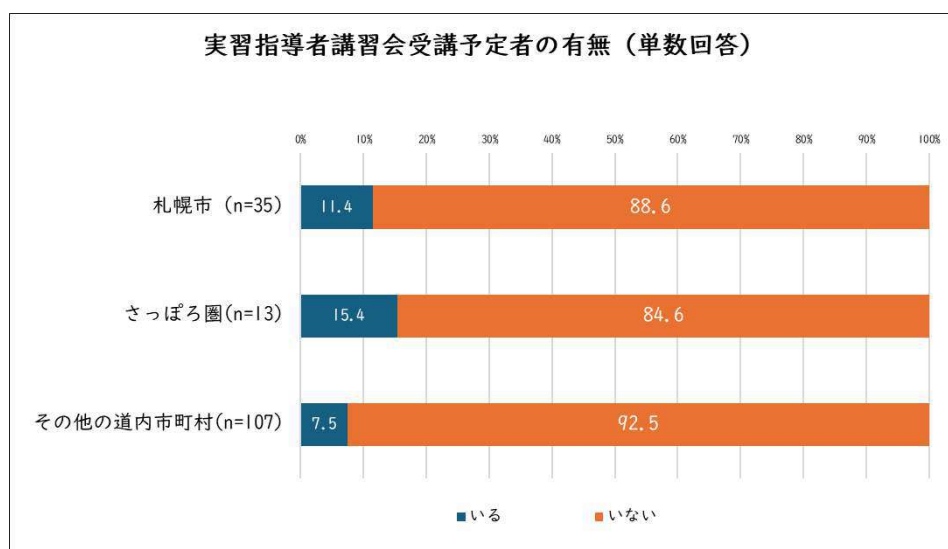
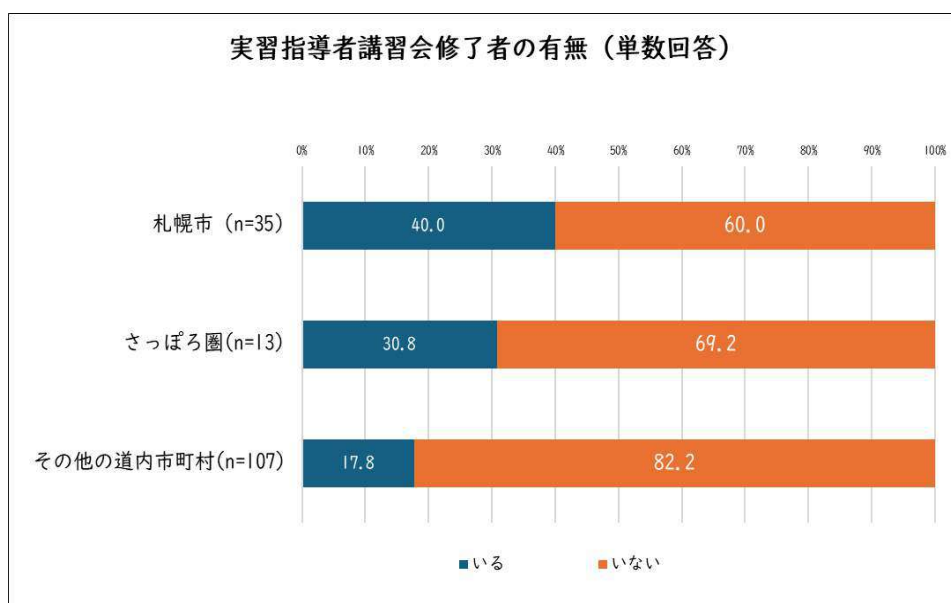
社会福祉士の在籍状況について、「社会福祉士がない」の割合は、札幌市が 31.4%、さっぽろ圏が 15.4%、その他の道内市町村が 41.1%と最も多くなっている。





#### ④実習指導者の在籍状況

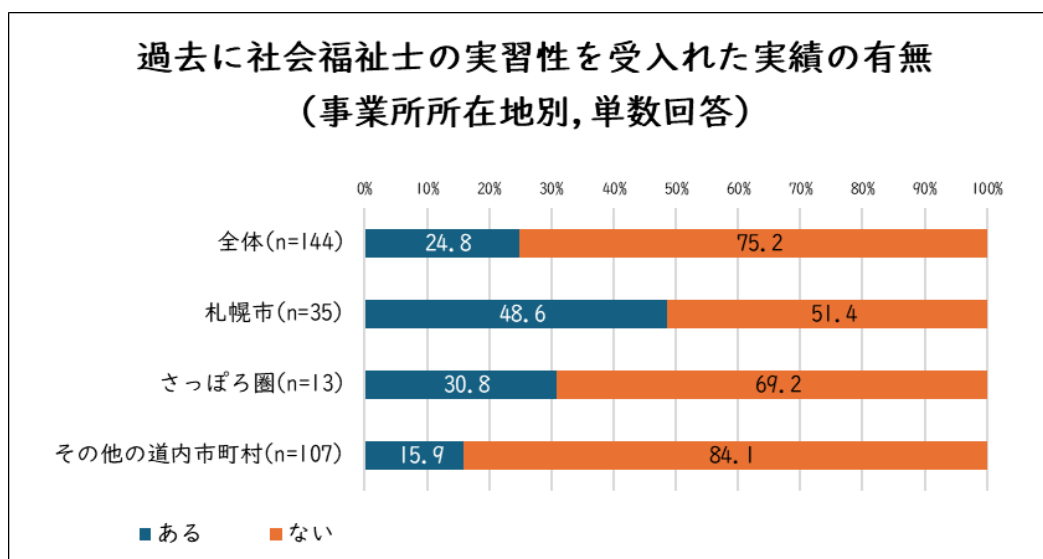
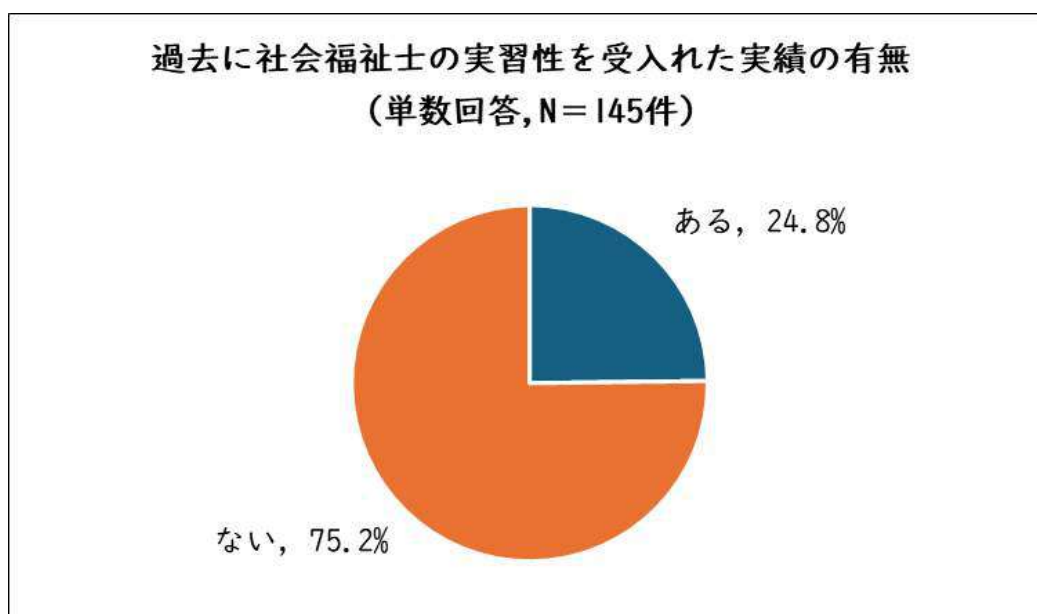
実習指導者の在籍状況について、「実習指導者講習会修了者がいない」、「実習指導者講習会受講予定者がいない」の割合は、札幌市やさっぽろ圏より、「その他の道内市町村」が多くなっている。



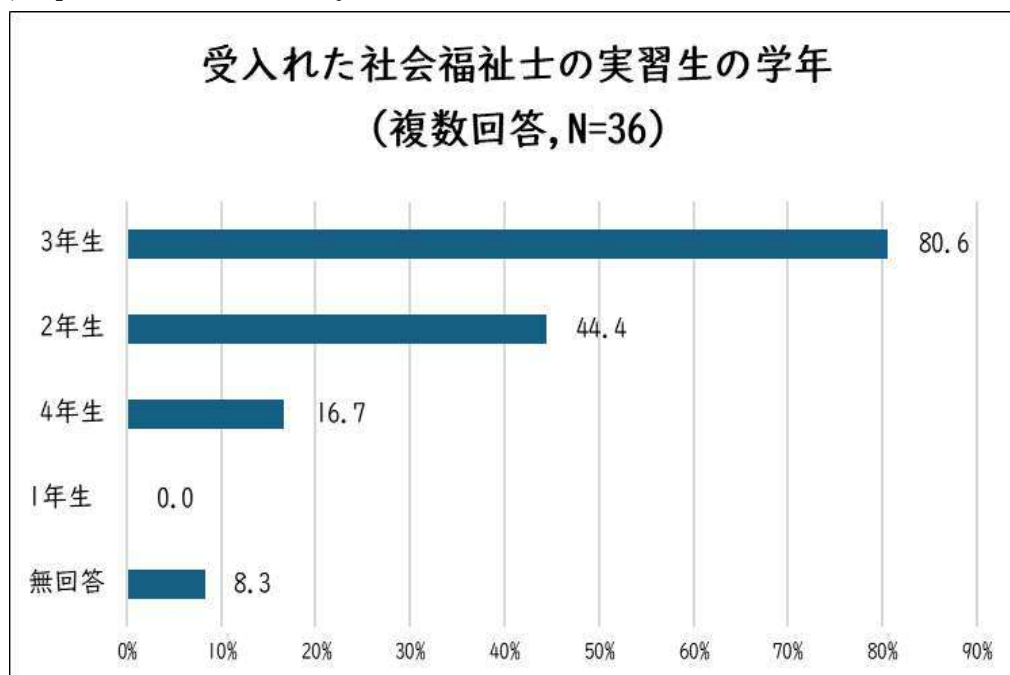
### ⑤社会福祉士の実習生を受入れた実績

過去に道内の事業所で社会福祉士の実習生を受入れた実績の有無について、「実績がある」は、全体では24.8%（36件）である。事業所の所在地別で見ると、札幌市が半分近く、さっぽろ圏が3割程度、その他の道内市町村が1割強となっている。

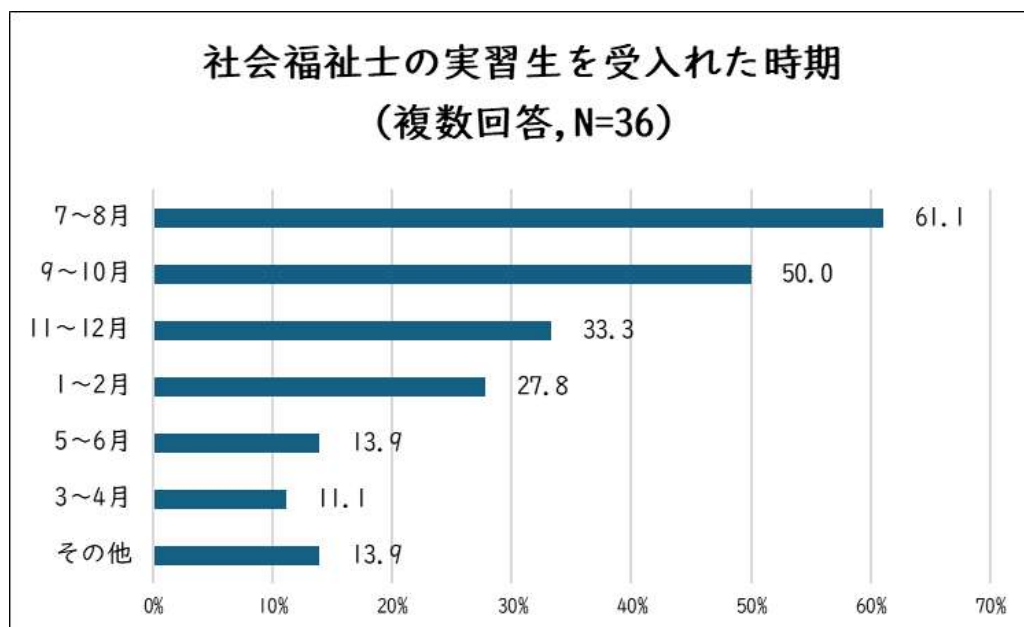
また、実績のある社会福祉法人の事業所の具体的な所在地について、札幌市が17件、さっぽろ圏が4件。その他には、北斗市、余市町、剣淵町、富良野市、上富良野町、白老町、蘭越、中標津町、津別町、古平町、鷹栖町、白老町、むかわ町、南富良野町がある。



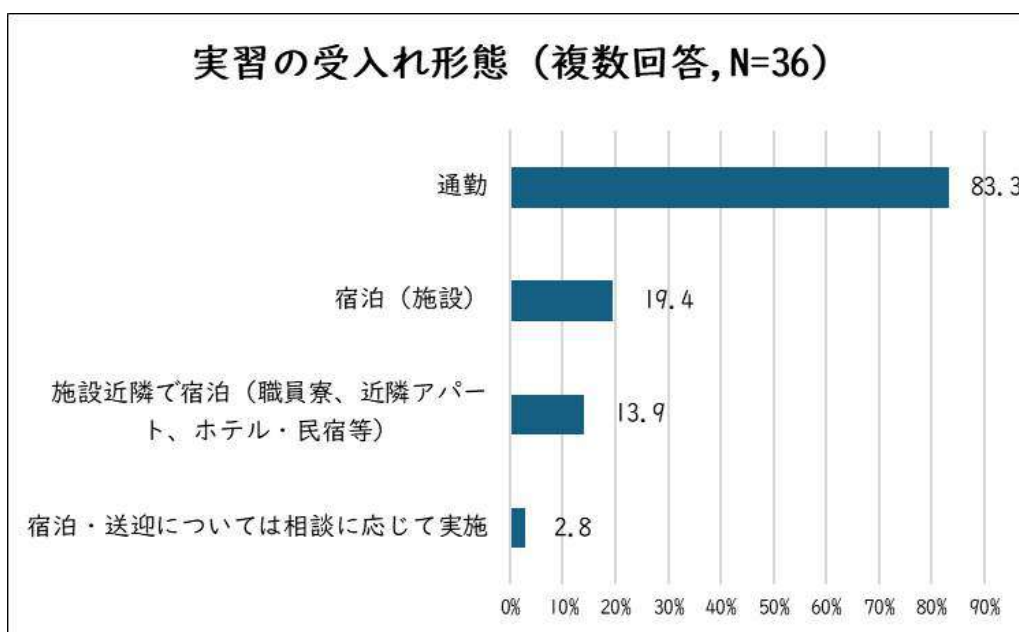
受入れた実習生の学年は「3年生」が8割、「2年生」が4割強、「4年生」が2割未満、「1年生」がなしとなっている。



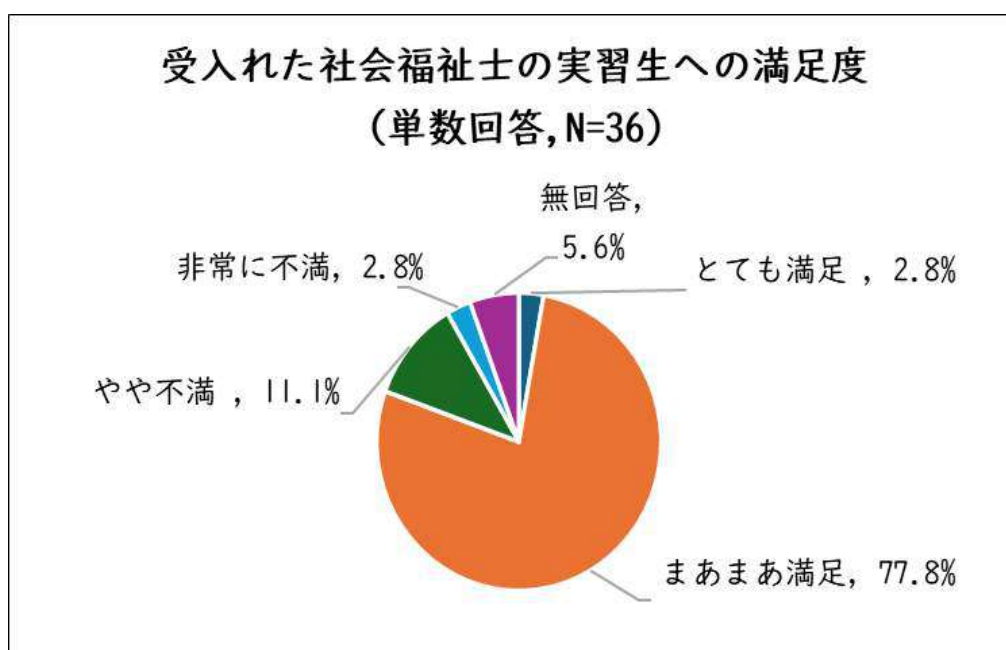
過去に社会福祉士の実習生を受入れた実績のある事業所では、実習生を受入れた時期について、「7～8月」が6割強と最も多く、次いで「9～10月」が半分、「11～12月」が3割強と続いている。



実習の受入れ形態について、「通勤」が8割強と最も多くなっている。

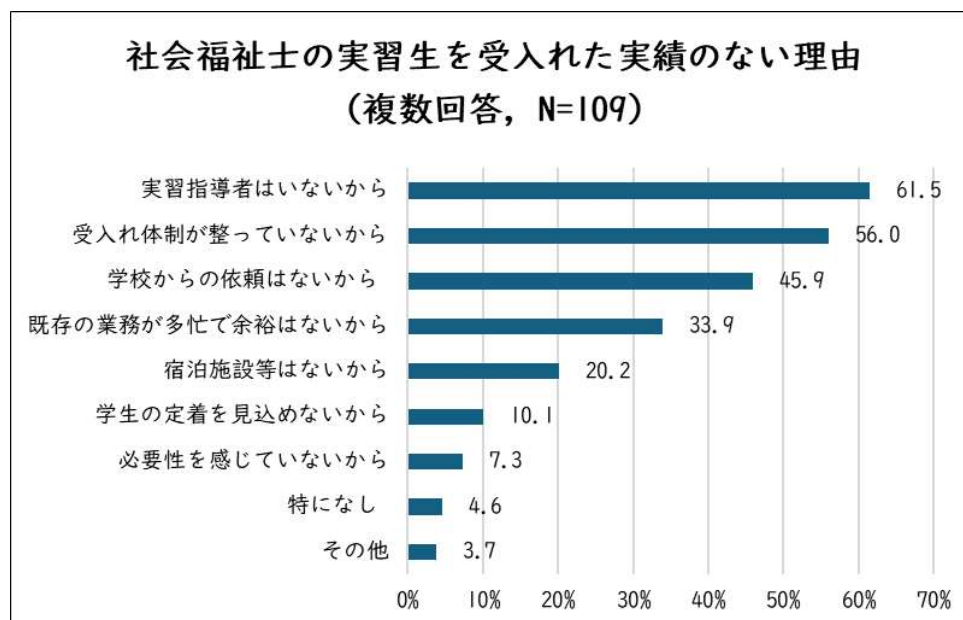


過去に社会福祉士の実習生を受入れた実績のある事業所では、受入れた実習生について、満足と評価している割合が8割程度となっている。



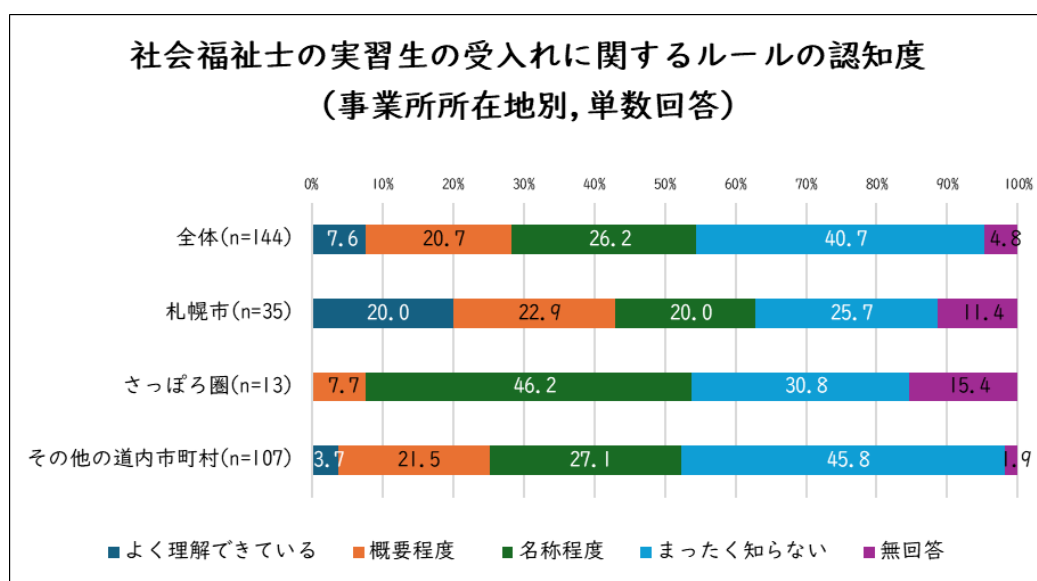
## ⑥社会福祉士の実習生を受入れていない理由

社会福祉士の実習生を受入れていない理由について、「実習指導者はいないから」が61.5%と最も多く、次いで「受入れ体制が整っていないから」が56.0%、「学校からの依頼はないから」が45.9%と続いている。



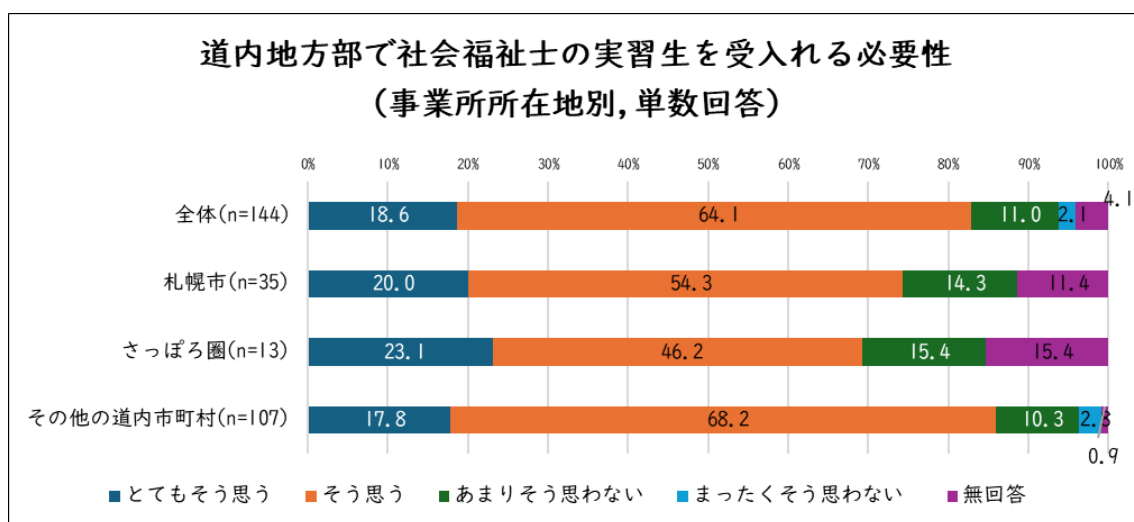
## ⑦社会福祉士の実習生の受入れに関するルールの認知度

社会福祉士の実習生の受入れに関するルールの認知度について、「よく理解できている」が札幌市では20.0%、その他の道内市町村では3.7%となっている。一方、「まったく知らない」が札幌市では25.7%、その他の道内市町村では45.8%となっている。



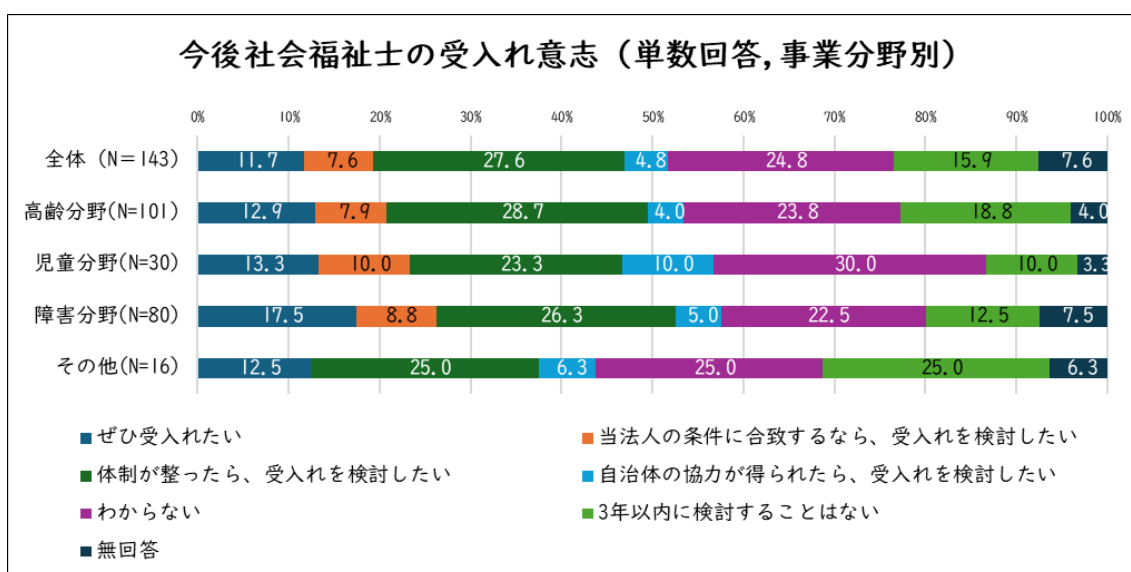
### ⑧道内地方部で社会福祉士の実習生を受入れる必要性

道内地方部で社会福祉士の実習生を受入れる必要性について、全体では、必要だと回答した数の割合が82.7%となっている。事業所の所在地別でみると、その他の道内市町村では必要だと回答した割合が86%と最も多くなっている。

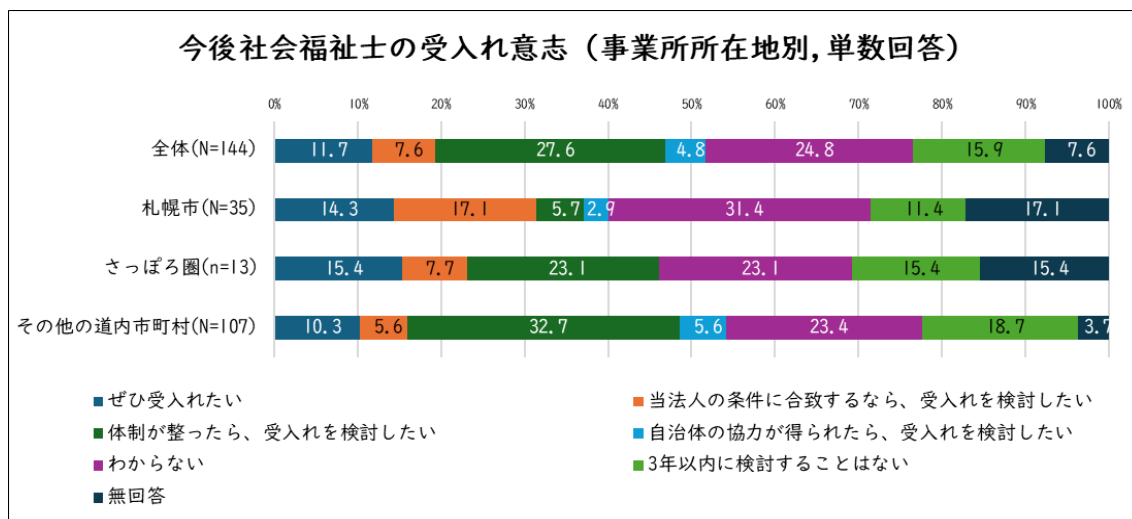


### ⑨道内地方部で社会福祉士の実習生を受入れる意向

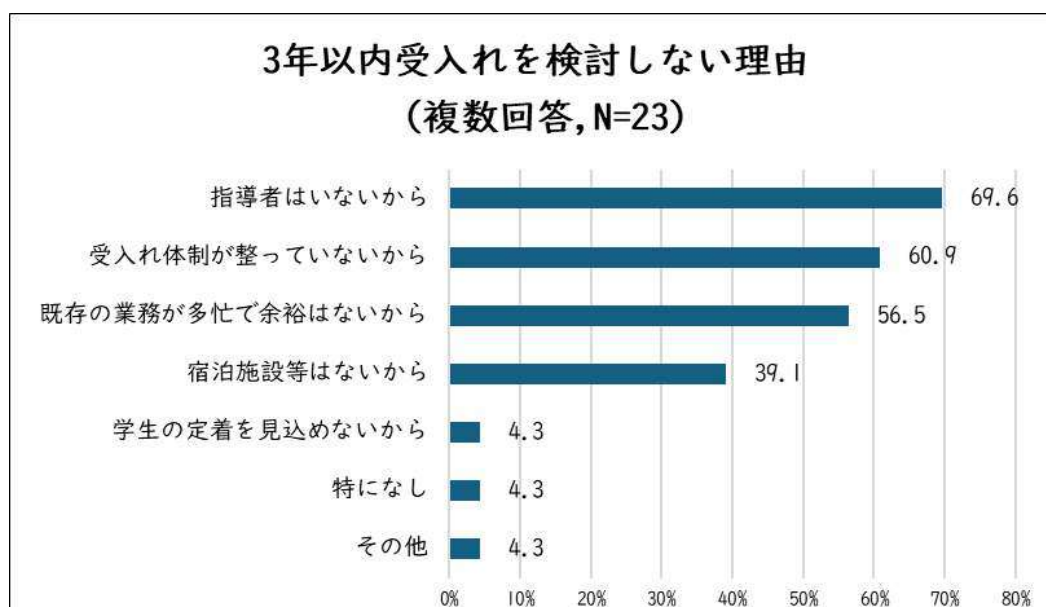
道内地方部における社会福祉士の実習生の受入れについて、全体では、「ぜひ受入れたい」が1割強、条件次第で「検討したい」が4割、「わからない」が2割強となっている。事業分野別でみると、「ぜひ受入れたい」は障害分野が17.5%と最も多くなっている。



道内地方部における社会福祉士の実習生の受入れについて、事業所の所在地別でみると、その他の道内市町村では、「ぜひ受入れたい」が1割程度、条件次第で「検討したい」が4割強となっている。また、その他の道内市町村では、「体制が整ったら、受入れを検討したい」が32.7%と全体より多くなっている。



道内地方部における社会福祉士の実習生の受入れについて、「3年以内検討することはない」の理由について、「指導者はいないから」が7割と最も多く、次いで「受入れ体制が整っていないから」が60.9%、「既存の業務が多忙で余裕はないから」が56.5%と続いている。



## 第5章 地方自治体を対象とした調査

### 1. 調査概要

地域において福祉人材を中長期的に確保する観点から、社会福祉士養成校と地域が連携し、学生のうちから「地域ならではの」暮らしや福祉の仕事等に関する体験や実習機会を確保するための方策を検討することを目的に、道内自治体を対象としたアンケート調査を実施した。

#### 【実施概要】

実施期間	2024年1月29日（月）～2024年3月6日（火）
実施方法	郵送及びオンライン回答
配布数	179件
回収数	60件（33.5%）
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 福祉・介護人材の過不足状況について</li><li>・ 福祉・介護人材の確保に向けた取組状況と成果について</li><li>・ 養成校との連携による社会福祉士の実習生の受入れ実態や今後の意向について</li><li>・ 2024年度のモデル実証への参加意向について</li></ul>

### 2. 調査結果

#### (1) 調査結果のまとめ

##### 【アンケート調査結果のまとめ】

- ・ 各自治体や管内・事業所における福祉・介護に係る専門職は、どの職種も過不足の状態が7割以上となっている。
- ・ 福祉・介護人材の確保に向けた様々な取組について、効果があったという回答率がいずれも2割以下となっている。
- ・ 介護・福祉人材の確保に向けた施策は、「地方創生」の重点施策として位置付けておらず、介護・福祉部署とまちづくり政策部署等の連携が十分ではなく、一体的に施策を推進していない」という回答率が4割となっている。
- ・ 自治体または管内の施設・事業所において、社会福祉士の実習生の受入れ実績や、福祉・介護人材に限らず、大学生等の若者の移住促進に向けた体験プログラム等の実績を持っている自治体が2割以下となっている。
- ・ 一方、今後の福祉人材の確保に向けて、社会福祉士の実習生の受入れを積極的に行う意向を持っている自治体が4割強となっている。

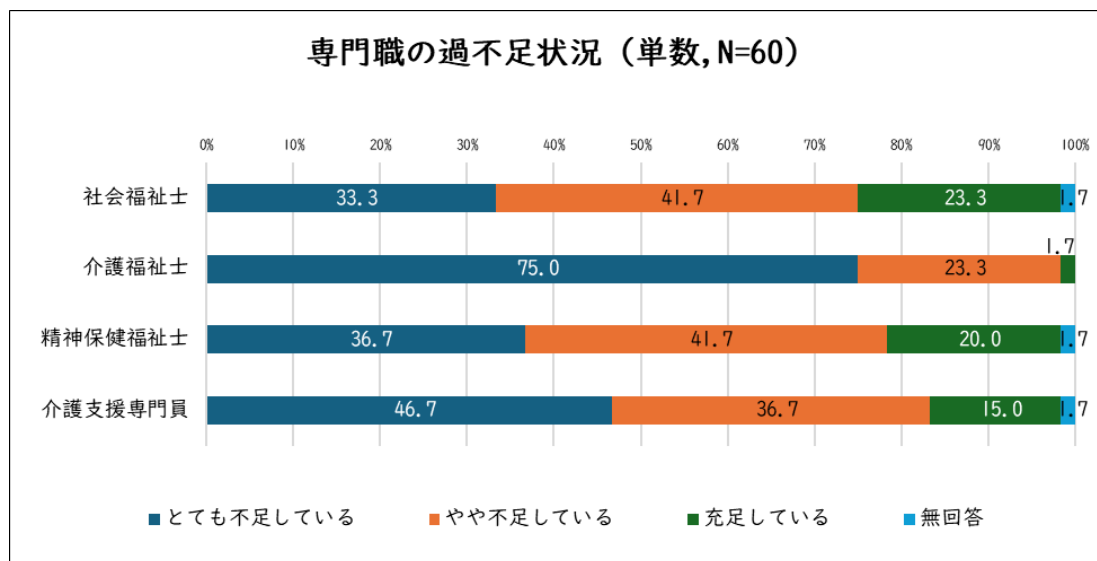


## (2) 主な調査結果

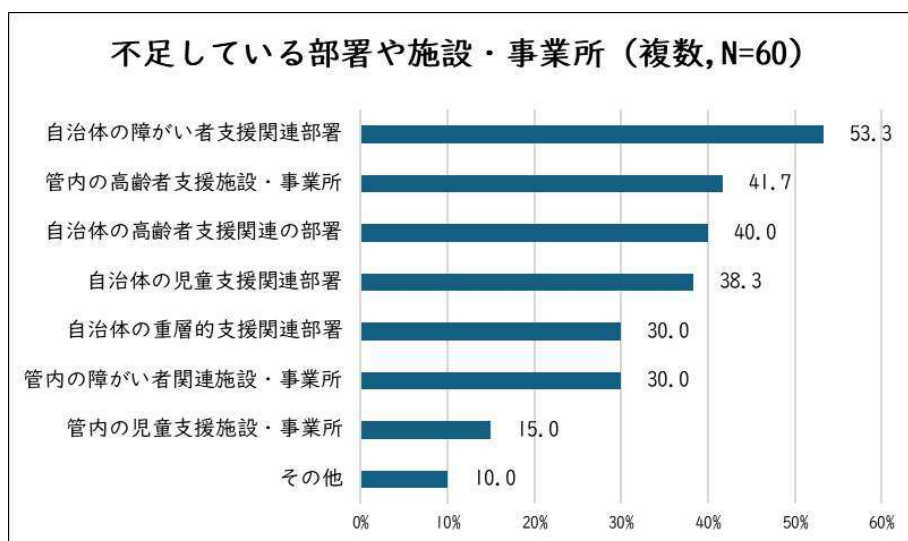
### ①福祉・介護人材の過不足状況

自治体や管内の施設・事業所における福祉・介護に係る専門職の過不足状況について、専門職の種類を問わず、不足しているという回答率がいずれも7割以上となっている。

具体的には、「とても不足している」及び「やや不足している」は、介護福祉士が98.3%と最も多く、次いで、「介護支援専門員」が83.4%、精神保健福祉士が78.4%、社会福祉士が75.0%と続いている。



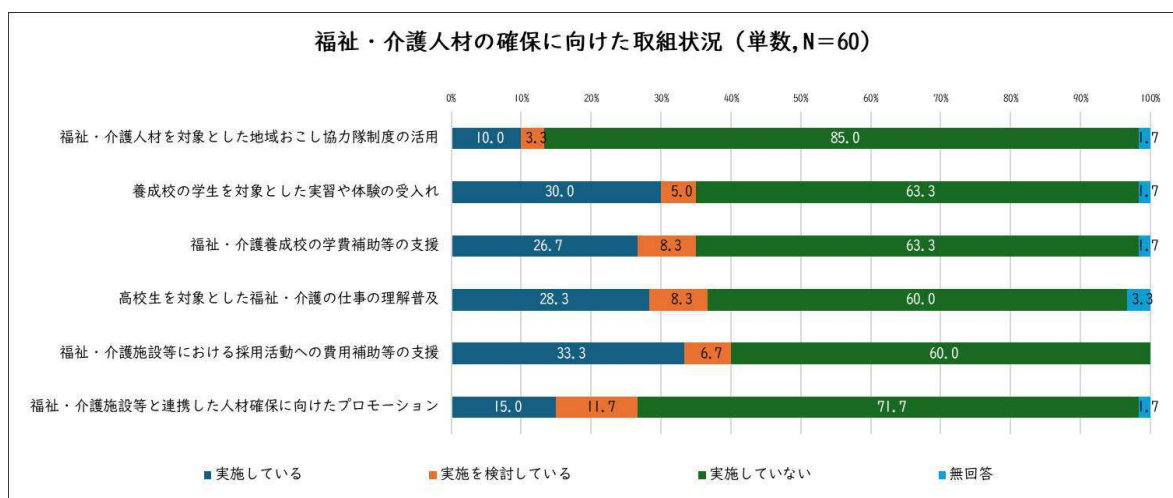
「社会福祉士」と「精神保健福祉士」が不足している部署や施設・事業所について、「自治体の障がい者支援関連部署」が53.3%と最も多く、次いで、「管内の高齢者支援施設・事業所」が41.7%、「自治体の高齢者支援関連の部署」が40.0%となっている。



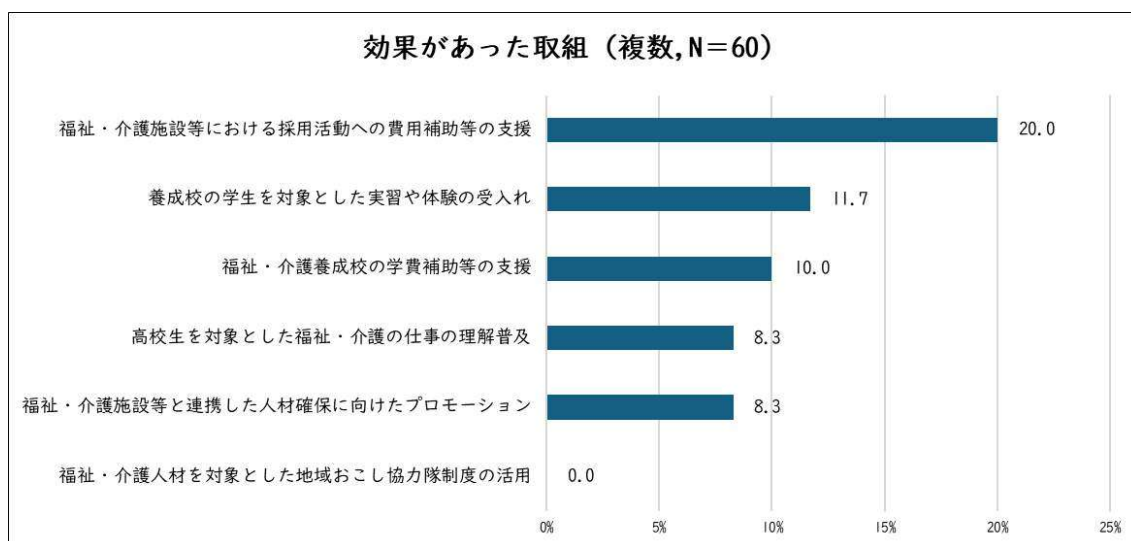
## ②福祉・介護人材の確保に向けた取組状況と成果

福祉・介護人材の確保に向けた取組状況について、「実施している」は「福祉・介護施設等における採用活動への費用補助等の支援」が 33.3%と最も多く、次いで「養成校の学生を対象とした実習や体験の受入れ」が 30.0%、「高校生を対象とした福祉・介護の仕事の理解普及」が 28.3%と続いている。

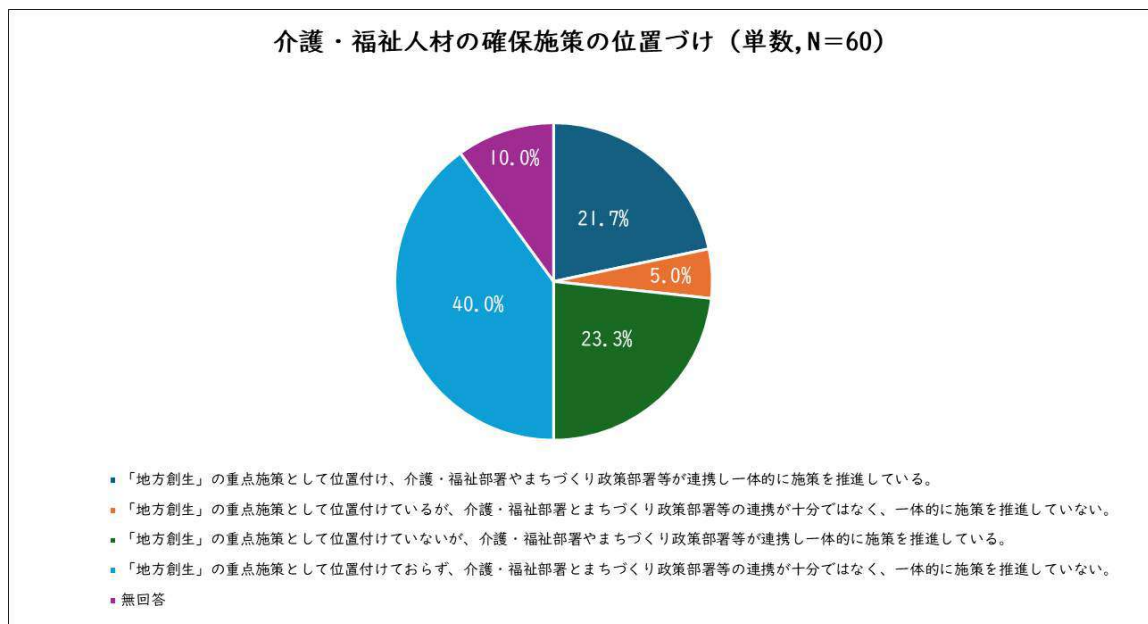
「実施を検討している」は「福祉・介護施設等と連携した人材確保に向けたプロモーション」が 11.7%と最も多くなっている。



採用に繋がったなど効果が得られた取組について、いずれも 2 割以下となっている。具体的には、「福祉・介護施設等における採用活動への費用補助等の支援」が 20.0%と最も多く、次いで「養成校の学生を対象とした実習や体験の受入れ」が 11.7%、「福祉・介護養成校の学費補助等の支援」が 10.0%となっている。

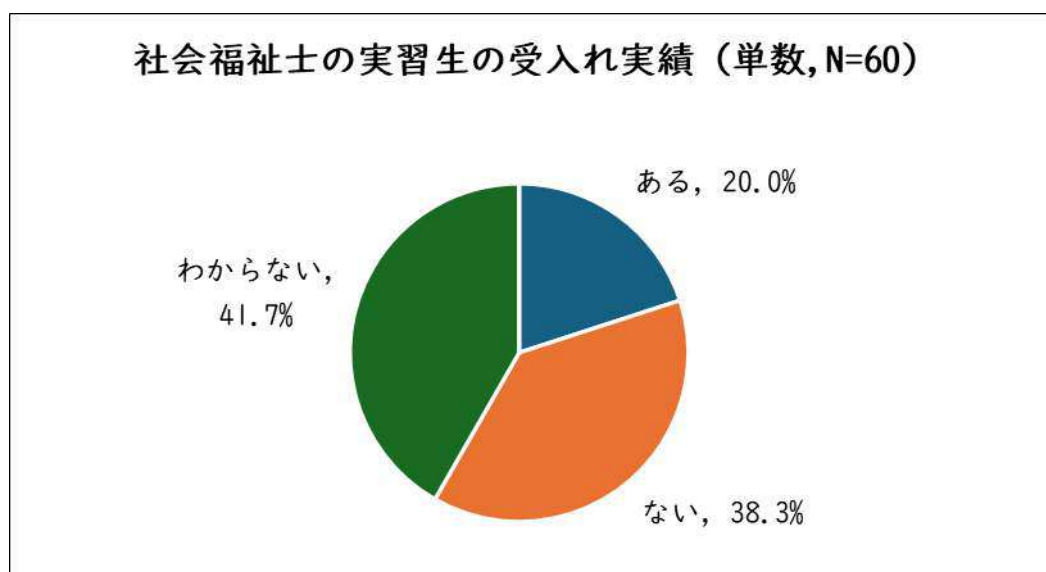


介護・福祉人材の確保施策は、“地方への人の流れをつくる”「地方創生」に向けた施策とした位置について、『「地方創生」の重点施策として位置付けておらず、介護・福祉部署とまちづくり政策部署等の連携が十分ではなく、一体的に施策を推進していない』が 40.0%と最も多くなっている。

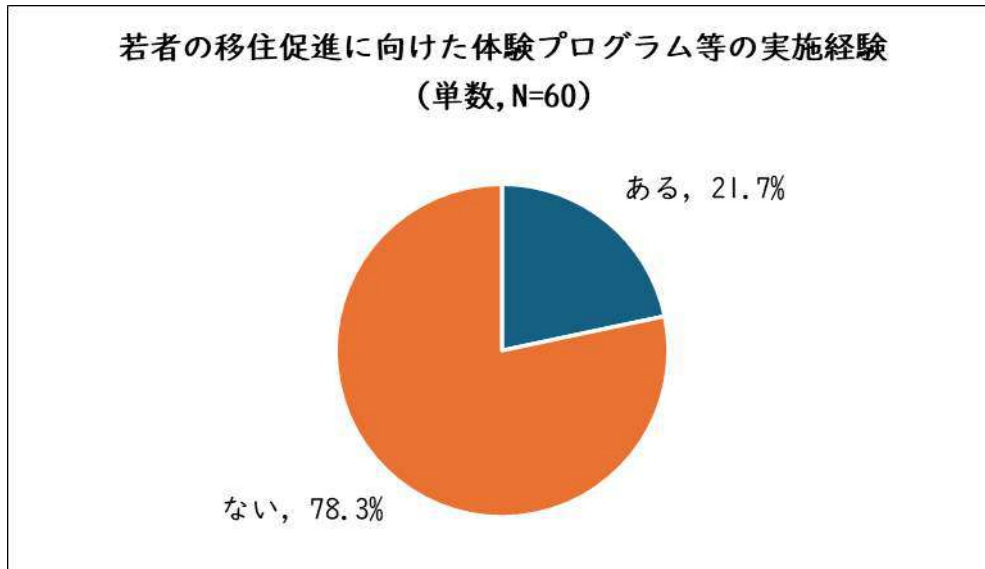


### ③養成校との連携による社会福祉士の実習生の受入れ実態

自治体または管内の施設・事業所において、社会福祉士の実習生の受入れ実績の有無について、「わからない」が 41.7%と最も多く、次いで「ない」が 38.3%、「ある」が 20.0%と続いている。

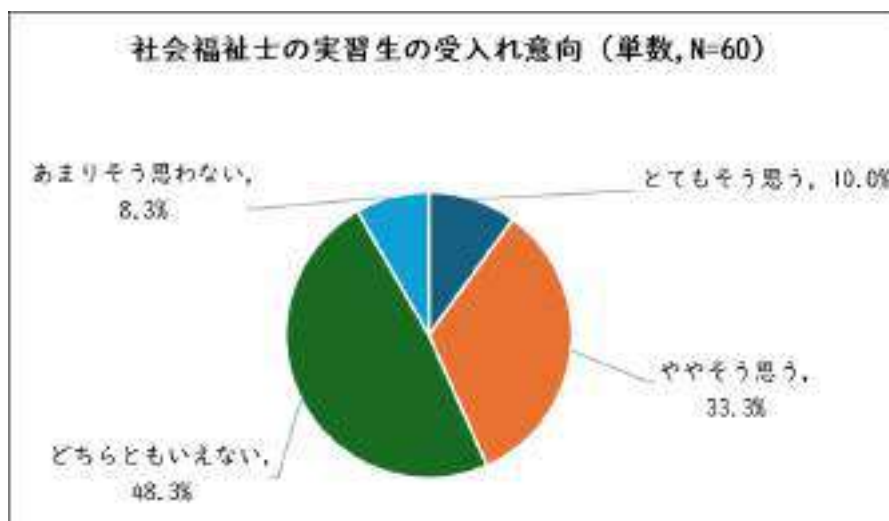


福祉・介護人材に限らず、大学生等の若者の移住促進に向けた体験プログラム等を実施した経験の有無について、「ない」が78.3%、「ある」が21.7%となっている。



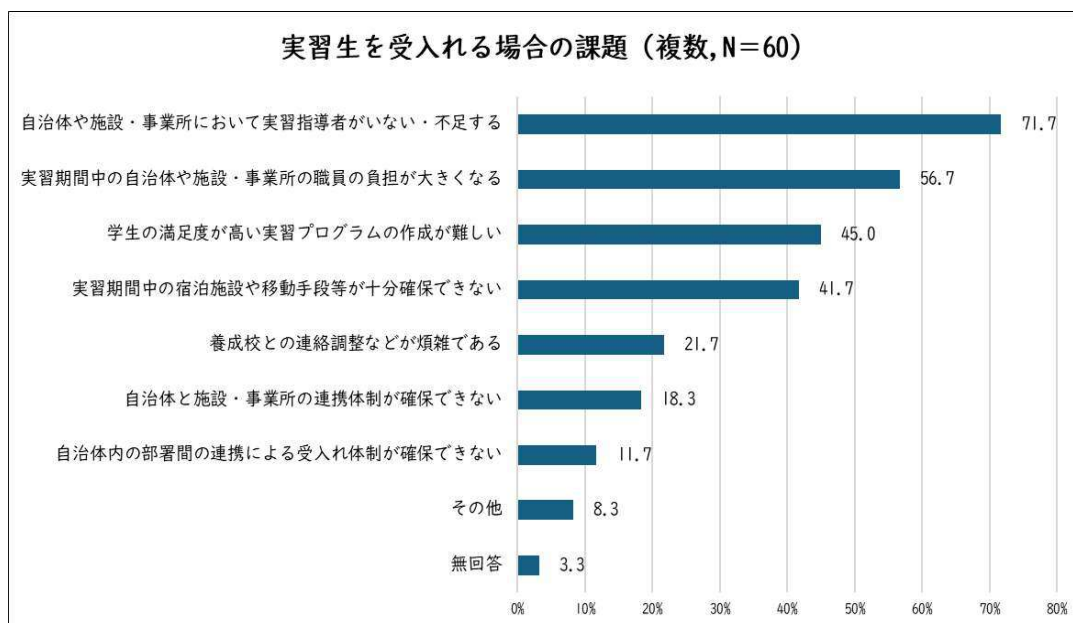
#### ④養成校との連携による社会福祉士の実習生の受入れの意向

今後の福祉人材の確保に向けて、社会福祉士の実習生の受入れを積極的に行う意向について、「どちらともいえない」が48.3%と最も多く、「とても思う」や「ややそう思う」が43.3%となっている。



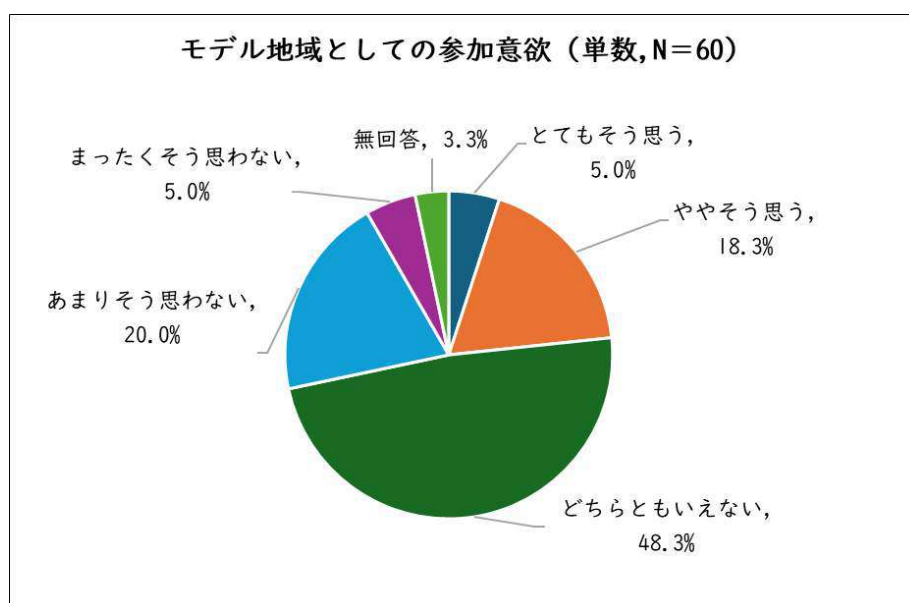
### ⑤養成校との連携による社会福祉士の実習生の受入れにおける課題

実習生を受け入れる場合に課題となりそうなことについて、「自治体や施設・事業所において実習指導者がいない・不足する」が71.7%と最も多く、「実習期間中の自治体や施設・事業所の職員の負担が大きくなる」が56.7%、「学生の満足度が高い実習プログラムの作成が難しい」が45.0%と続いている。



### ⑥2024年度のモデル実証への参加意向

2024年度に社会福祉士養成校の学生を受け入れる実証事業があった場合にモデル地域として参加したいかどうかについて、「どちらともいえない」が48.3%と最も多く、「とてもそう思う」や「ややそう思う」が23.3%となっている。



## 第6章 地方部における学生のフィールドワークの実証

### 1. 実施概要

2023年8月下旬～9月中旬において、社会福祉士を目指している大学生（34名）を対象に、道内5地域（夕張市、喜茂別町、和寒町、浦河町、京極町）におけるフィールドワークを実施した。

#### (1) 実証地域の選定

道内関係機関へのヒアリングやインターネット等で公開されている情報をもとに、学生をはじめとした若者の人材確保に積極的な道内自治体をリストアップしたうえ、実証地域として夕張市、喜茂別町、和寒町、浦河町、京極町という5地域を抽出した。

各地域の具体的な受入れ先は次の通り。

市町村名	受入れ先
夕張市	一般社団法人らぷらす
喜茂別町	喜茂別町元気応援課（喜茂別町地域包括支援センター）
和寒町	和寒町保健福祉課（地域包括支援センター）
浦河町	社会福祉法人浦河べてるの家
京極町	社会福祉法人京極町社会福祉協議会



【募集の結果】

No.	所属大学	学年	実証地域と日程
1	北星学園大学	1年生	【夕張市①】 (8/28～9/1)
2	北星学園大学	1年生	
3	北星学園大学	1年生	
4	北海道教育大学	2年生	
5	北星学園大学	1年生	【夕張市②】 (9/4～9/8)
6	北星学園大学	1年生	
7	北星学園大学	1年生	
8 (辞退)	北星学園大学	1年生	
9	星槎道都大学	4年生	【喜茂別町①】 (9/4～9/8)
10	星槎道都大学	4年生	
11	北星学園大学	1年生	
12	北星学園大学	1年生	
13	北星学園大学	1年生	【喜茂別町②】 (9/11～9/15)
14	北星学園大学	1年生	
15	北星学園大学	1年生	
16	北星学園大学	1年生	
17	北星学園大学	1年生	
18	北海道北星学園大学	1年生	【和寒町】 (9/11～15)
19 (辞退)	北星学園大学	1年生	
20 (辞退)	北星学園大学	1年生	
21	北星学園大学	1年生	
22	北星学園大学	1年生	
23	北星学園大学	1年生	
24	北星学園大学	1年生	【浦河町①】 (8/28～9/1)
25	北海道教育大学函館校	2年生	
26 (辞退)	北星学園大学	1年生	
27	北星学園大学	1年生	【浦河町②】 (9/11～9/15)
28	北星学園大学	1年生	
29	北星学園大学	1年生	
30	北星学園大学	1年生	【浦河町③】 (9/18～9/22)
31	北海道医療大学	1年生	
32	北海道医療大学	1年生	
33	北海道医療大学	1年生	
34	北海道教育大学函館校	2年生	【京極町①】 (9/11～9/15)
35	北星学園大学	1年生	
36	北星学園大学	1年生	
37	北星学園大学	1年生	
38	北星学園大学	1年生	



## 2. 実施結果

### (1) 各地域の実施内容

#### ①夕張市

##### 【グループ1】

日付	内容	タイムスケジュール
8/28	鹿の谷駅事業 トロッコ 地域との関わり	10:45 黄色いハンカチひろば前到着 はまなす会館徒歩1分以内 全体的な流れのお話し 11:30 鹿の谷駅へ向かう 12:00 お昼ごはん、食べながら雑談 13:00 つるちゃんのお話し 14:00 ゆうばり共生型ファームへ向かう ゆうばり共生型ファームのご案内 16:00 Yubari House に向かう
8/29	夕張の教育 夕張岳 「富良野芦別道立自然公園」 化石・砂金	8:39 夕鉄バス ホテルシューパーロ前乗車 9:11 りすた到着 9:30 教育委員会 山口一樹氏のお話し 12:00 お昼ごはん 13:00 教育委員会 高橋賢一氏のお話し 14:00 化石の場所へ移動、化石探し 15:00 りすたに戻ってお話し 16:00 Yubari House に向かう
8/30	ズリ山、産業遺産	8:39 夕鉄バス ホテルシューパーロ前乗車 9:01 清水沢郵便局前到着 徒歩でコミュニティーゲートまで 9:20 コミュニティーゲート到着 10:00 発電所見学 12:00 お昼ごはん 13:00 ズリ山登山、宮前町・清栄町歩く 座学 15:30 宮前浴場入浴 おばあちゃん、おじいちゃんとの交流 16:00 終了
8/31	夕張の歴史過去から現在 まで 夕張全般	8:45 お迎え宿出発 9:00 松宮さん宅到着 ガイド開始 松宮さんお任せコース
9/1	らぷらすの取り組み	8:39 夕鉄バス ホテルシューパーロ前乗車 8:52 黄色いハンカチひろば前到着 9:00 らぷらすのご紹介 事業所案内 16:30 終了

【グループ2】

日付	内容	タイムスケジュール
9/4	ズリ山、産業遺産	10:45 黄色いハンカチひろば前到着 はまなす会館徒歩1分以内 11:00 全体的な流れのお話し 11:30 お昼ごはん 12:30 コミュニティーゲート到着 佐藤真奈美氏ご案内 17:30 解散
9/5	夕張の教育 夕張岳「富良野芦別道立自然公園」 化石・砂金	8:39 夕鉄バス ホテルシューパロ前乗車 9:11 りすた到着 9:30 教育委員会 山口一樹氏のお話し 12:00 お昼ごはん 13:00 教育委員会 高橋賢一氏のお話し 14:00 化石の場所へ移動、化石探し 16:00 終了
9/6	ケアハウスの理念 高齢者の話 3グループ デイサービスの体験	8:39 夕鉄バス ホテルシューパロ前乗車 9:30 ケアハウス レインボーヒルズ到着 下山歩さん 12:00 お昼ごはん 15:00 終了
9/7	夕張の歴史過去から現在まで 夕張全般	8:45 お迎え宿出発 9:00 松宮さん宅到着 ガイド開始 松宮さんお任せコース
9/8	らぷらすの取り組み	8:39 夕鉄バス ホテルシューパロ前乗車 8:52 黄色いハンカチひろば前到着 9:00 らぷらすのご紹介 事業所案内 16:30 終了

## ②喜茂別町

### 【グループ 1】

9/4(月)		9/5(火)		9/6(水)	
		9:00		9:00	町長へのインタビュー内容を検討
		10:00~	愛和の里(お祭りの手伝い・終日)	10:00	町長へのインタビュー
		11:00		11:00	クイズ問題作成
		12:00	昼食はあいわにて	12:00	休憩
13:30~実習開始	役場資料、町内マップ	13:00		13:00	クイズ問題作成
14:00		14:00		14:00	
15:00	喜らめきの郷(特養)見学	15:00		15:30~訪問 (担当:齊藤保健師)	15:30~認定調査(仮) (担当:長谷川)
16:00		16:00			
17:00		17:00		17:00	

9/7(木)		9/8(金)	
9:00	グループワーク ~テーマ~	9:00	宿泊先の清掃
10:00	・子育て支援会議 ・虐待 ・地域課題(ICT含む) ・社会福祉士の あれこれ などなど	10:00	元気応援課集合 実習の振り返り
11:00		11:00	
12:00	休憩	12:00	終了~帰宅
13:00	羊蹄山ろく地域巡回		
14:00			
15:00			
16:00			
17:00			
17:30~	BBQ		

【グループ2】

9/11(月)	9/12(火)	9/13(水)
	9:00 9:30～元気応援課に集合	9:00 グループワーク
	10:00～ 町長へのインタビュー	10:00 ↓
	11:00	11:00
	12:00 休憩	12:00 休憩
13:30～実習開始 敬老会手伝い(ふれあい福祉センター)	13:00	13:00 あいわの里見学
14:00 ↓	14:00 14:30～子育て支援会議	14:00 ↓
15:00 役場資料、町内マップ活用	15:00 ↓	15:00 喜らめきの郷見学
16:00	16:00	16:00
17:00	17:00	17:00

9/14(木)	9/15(金)
9:00 羊蹄山ろく地域巡回	9:00 宿泊先の清掃
10:00 ↓	10:00 元気応援課集合 実習の振り返り
11:00 ↓	11:00 ↓
12:00 休憩	12:00 終了～帰宅
13:00 13:30～訪問(ICT) (担当:齊藤保健師)	
14:00 ↓	
15:00	
16:00	
17:00	
17:30～ BBQ	

③和寒町

1日目 (月) 9/11		移動(札幌～和寒) 和寒着 12:04	昼食	オリエン テーション	町内散策① 街並みを知る	講話① 社福として の活動 【社協SW】	講話② (ワフイン) ふくしのまちづくり 【大原氏】	交流① 歓迎会
--------------------	--	------------------------	----	---------------	-----------------	-------------------------------	-------------------------------------	------------

2日目 (火) 9/12	9:00	9:30	12:00	13:00	16:00	17:00	
	実習①※人数変更につき組み直し中 3名 ケアマネ		昼食	町内散策② 和寒町の歴史、文化にふれる	実習② 配食サービス 【社協】	夕食	
	1名 高齢者のヘルパー	→	高齢者のデイ				3名 昼食 (デイで提 供あり)
	2名 高齢者のデイサービス(なのはな)						

3日目 (水) 9/13	9:00	11:00	12:30	13:30	15:00	16:00	17:00	
	実習③ 幼児保育を学ぶ 【保育所】		町内散策③ 和寒の歴史、文化 にふれる	散策先で 昼食	実習④ 高齢者のデイサービス 【健楽苑】	講話③ 社福としての活動 【芳生苑・包括SW】	実習⑤ 居宅情報会議 【居宅・包括】	夕食 希望者 星空見学 【森林公園】

4日目 (木) 9/14	9:00	10:30	13:00	15:30	16:00	17:00	
	体験① 和寒発祥のnewsスポーツ 【全日本玉入れ】		体験② 地方自治を学ぶ 【議会傍聴】	昼食	体験③ 農作業体験 【カボチャ収穫】 ※体験③④チェンジ⇄	体験④ 羊とのふれあい体験 【養羊作業】	交流② 激励会
			実習⑥ 安否確認 【社協】				

議会定例会

5日目 (金) 9/15	9:00	9:30	12:00	13:00	14:30	
	実習⑦※人数変更につき組み直し中 3名 ケアマネ		昼食	討議① 振り返り 【保健福祉課】	解散式 和寒発 札幌着 15:21 17:25	
	1名 高齢者のヘルパー	→	高齢者のデイ			3名 昼食 (デイで提 供あり)
	2名 高齢者のデイサービス(なのはな)					

議会定例会

#### ④京極町

日時	内容
9月11日 (月) 12:22 13:30	学生4名が京極町に到着・迎え 京極町福祉センターにてオリエンテーション 福祉センター見学
14:30	町内ドライブ 市街地・農村部・隣町(倶知安) 色々な生活の主体者になりきって生活圏域を考えてみよう(高齢者?子ども?子育てママさん?働いている人?などなど) めあて:日常生活圏域って?
17:00	しずくの森到着 笹浪オーナーに挨拶 明日の活動について確認
9月12日 (火) 14:00	AMフィールドワーク 京極町民になってみよう!(暮らしのリアルをイメージ) 高齢者になってみる?そのまんま?障がいのある方? はたまた小学生?子育て中のママさん? めあて:生活の主体者になりきって、暮らしの便利をイメージーション! 京極町の福祉サービス、行政サービス、企業力を考えてみよう 14:00 やってみて感じたこと発表!
15:00	京極町役場訪問(現地集合) 役場社会福祉士の活動と京極町の福祉展開について講話を受ける
18:30	ケアカフェ参加 京極町内の福祉関係機関職員と交流します
9月13日 (水) 11:00 12:00 13:30	きょうここにてインタビュー(現地数合) きょうここについての講話 理事長、副理事長、事務員さんや担い手さんに暮らしのこと、福祉活動のことをインタビュー めあて:ひとりの住民を多面的に見つめること (アセスメント) ランチタイム 第2回インタビュー 地域の担い手さん代表の方々にインタビュー
15:00	本日の情報共有会 どんな話が聞けましたか?みんなで共有してみましよう
9月14日 (木) 15:00	きょうごくデジタルポイントラリーに参加してみよう! 全8か所を制覇!!! めあて:京極町のスポットの歴史やそこにかかわっている住民活動を知りましよう
15:00	本日の情報共有会

日時	内容
	ポイントラリーのポイントになっている個所を知り、京極町のことをより深く知ります
16:30	ソーシャルワーク実習成果発表会に参加 先輩学生のソーシャルワーク実習での研究発表をきいてみましょう！
9月15日 (金)	役場企画振興課職員と巡るふきだし公園散策 京極町のシンボルともいえるふきだし公園について学びます
11:00	めあて：町のシンボルと観光振興を考える
12:00	名水プラザにてランチミーティング
13:30	フィールドワーク終了 終了後、JR 俱知安駅へ送迎 15：17 小樽行き

### ⑤浦河町

8/26(月)	8/27(月)	8/28(月)
16:00 浦河町・オリエンテーション★法入本陣 17:00 理事長による講話 18:00 夕食：各自（ ）	浦河町オリエンテーション★カフェぶらぶら 夕食：ワエルカムパーティー★カフェぶらぶら	浦河町・オリエンテーション★カフェぶらぶら 理事長による講話・石黒 SW の講話 夕食：ワエルカムパーティー★カフェぶらぶら
8/29(火)	8/30(火)	8/31(水)
9:00 べてるのメンバー新MT★ニューベてる 10:00 就労支援・農福連携作業体験（いもご） 11:00 昼食：各自（ ） 12:00 町内法人内事業所見学 13:00 グループホーム見学 14:00 ひがしよも診療所視察ナイトケアプログラム参加 15:00 夕食：ワエルカムパーティー★カフェぶらぶら	べてるのメンバー新MT★ニューベてる 就労支援・農福連携作業体験（いもご） 昼食：各自（ ） フレンドよりちえん視察 井原園長の講話 ひがしよも診療所視察ナイトケアプログラム参加 夕食：各自（ ）	9/19(火) 浦河町→えりも町へ移動 小多機「いろり」視察 昼食：各自（えりも） カフェコンタよりも・佐野仕職の講話 えりも町→浦河町へ移動 ひがしよも診療所視察ナイトケアプログラム参加 夕食：各自（ ）
8/30(水)	8/31(木)	9/1(金)
9:00 移浦河町→えりも町へ移動 10:00 小多機「いろり」視察 11:00 昼食：各自（えりも） 12:00 えりも町内農福連携事業所視察（トマト） 13:00 えりも町→浦河町へ移動 14:00 相談支援事業所ういげ視察 15:00 夕食：各自（ ） 16:00 石黒 SW の講話をまきご	9/31(水) 移浦河町→えりも町へ移動 小多機「いろり」視察 昼食：各自（えりも） カフェコンタよりも・佐野仕職の講話 えりも町→浦河町へ移動 相談支援事業所ういげ視察 夕食：各自（ ） 石黒 SW の講話をまきご	9/20(水) べてるのメンバー新MT★ニューベてる 就労支援・農福連携作業体験（いもご） 昼食：各自（ ） フレンドよりちえん視察 井原園長の講話 相談支援事業所ういげ視察 夕食：各自（ ）
8/31(木)	9/1(金)	9/2(金)
9:00 フレンドよりちえん視察 10:00 井原園長の講話 11:00 昼食：各自（ ） 12:00 エマオ診療所視察 13:00 児童グアイ「ぶどうの木」「からしたね」 14:00 夕食：各自（ ） 15:00 オプション☆映画鑑賞☆大黒屋☆大正7年創業	9/1(木) エマオ診療所視察 児童グアイ「からしたね」 昼食：各自（ ） 町内法人内事業所見学・グループホーム見学 理事長による講話 夕食：各自（ ） オプション☆映画鑑賞☆大黒屋☆大正7年創業	9/21(木) 町内法人内事業所見学 グループホーム見学 昼食：各自（ ） エマオ診療所視察 児童グアイ「ぶどうの木」「からしたね」 夕食：各自（ ） オプション☆映画鑑賞☆大黒屋☆大正7年創業
9/1(金)	9/15(金)	9/22(金)
7:00 就労支援・農福連携・イナゴ農家視察（菅農園） 10:00 昼食：各自（ばんばかばん） 11:00 当事者研究ワークショップ 13:00 フィールドワークのまとめ 14:00 終了。バス停へ移動	就労支援・農福連携・イナゴ農家視察（菅農園） 昼食：各自（ばんばかばん） 当事者研究ワークショップ フィールドワークのまとめ 終了。バス停へ移動	就労支援・農福連携・イナゴ農家視察（菅農園） 昼食：各自（ばんばかばん） 当事者研究ワークショップ フィールドワークのまとめ 終了。バス停へ移動

## (2) 事前オリエンテーションの実施

参加する学生を対象に、各実証地域の状況を紹介しながら、フィールドワーク実施前後の学生の変化を図るため、フィールドワークを実施する前に、事前オリエンテーションを実施した。具体的には、下記5つの内容について事前情報を集めた。

- (ア) フィールドワークに参加する動機・きっかけ
- (イ) フィールドワークの目的
- (ウ) フィールドワークで学びたいこと・知りたいこと
- (エ) 現在の自分の状態、フィールドワークを終えた後、どうなっていたいか
- (オ) 事前に調べたこと(地域資源、産業、サービス等…)

## 3. 事後アンケート調査

### (1) アンケート調査の概要

地方部における学生のフィールドワークの実施成果と課題を明確にするため、フィールドワークに参加した学生を対象にアンケート調査を実施した。

#### 【調査概要】

実施期間	令和5年10月4日(水)～令和5年10月10日(火)
実施方法	Google フォームによるオンライン回答
回答率	94.1% (参加者34名のうち、32名から回答をいただいた)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 回答者の属性</li><li>・ 地方部におけるフィールドワークへの参加経験</li><li>・ 今回のフィールドワークに参加した満足度</li><li>・ フィールドワークに参加した前後の心境の変化</li><li>・ 将来、フィールドワークに参加した地域に就職する可能性</li><li>・ 希望のプログラムの内容や体験メニュー</li></ul>



## (2) アンケート調査の主な結果

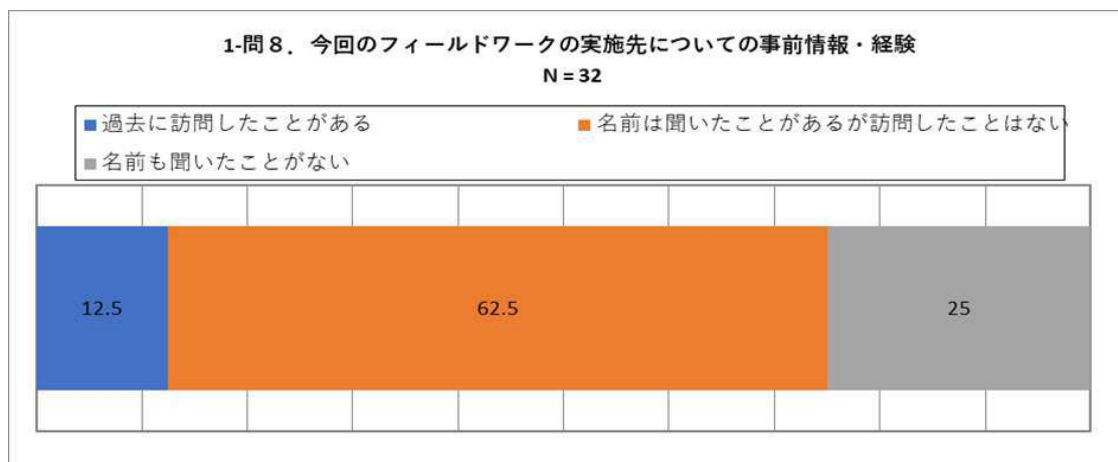
### ①回答者の属性

回答者の概要は下記の通り。

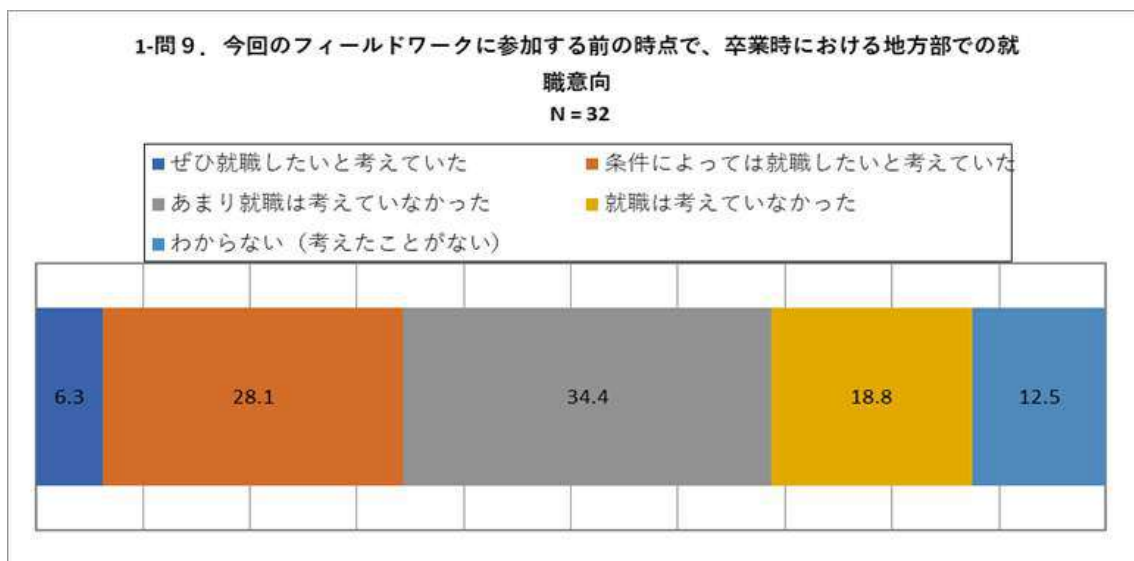
分類	回答状況
性別	女性（26件）、男性（6件）
所属大学	北星学園大学（24件）、北海道医療大学（3件）、北海道教育大学（3件）、星槎道都大学（2件）
学年	1年生（27件）、2年生（3件）、4年生（2件）
居住地	札幌市（20件）、その他（12件）

### ②フィールドワークに行く前

今回のフィールドワークの実施先に過去に訪問した経験のない方は、9割近くとなっている。



参加する前から、卒業後地方部で就職する意向のある方が3割強となっている。

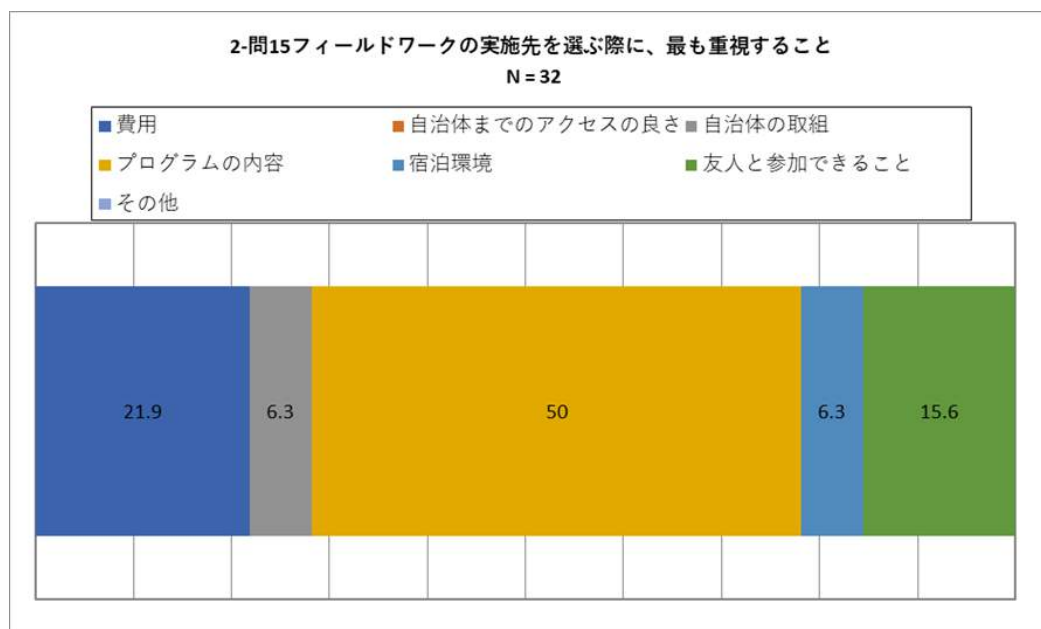


過去に地方部におけるフィールドワークに参加した経験のある方は2名のみである。

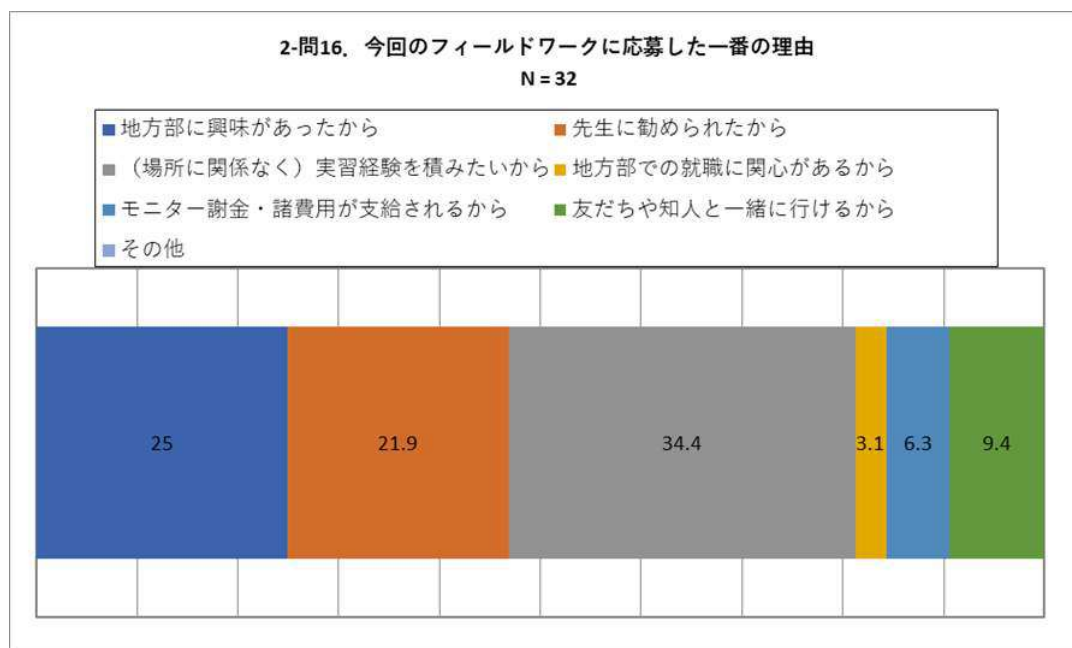


### ③フィールドワークの応募動機

実施先を選ぶ際に、最も重視されているのは、「プログラムの内容」が5割と最も高くなっている。



今回のフィールドワークに応募した一番の理由は、「(場所に関係なく) 実習経験を積みたいから」が34.4%と最も高く、次いで「地方部に興味があったから」が25.0%、「先生に勧められたから」が21.9%と続いている。

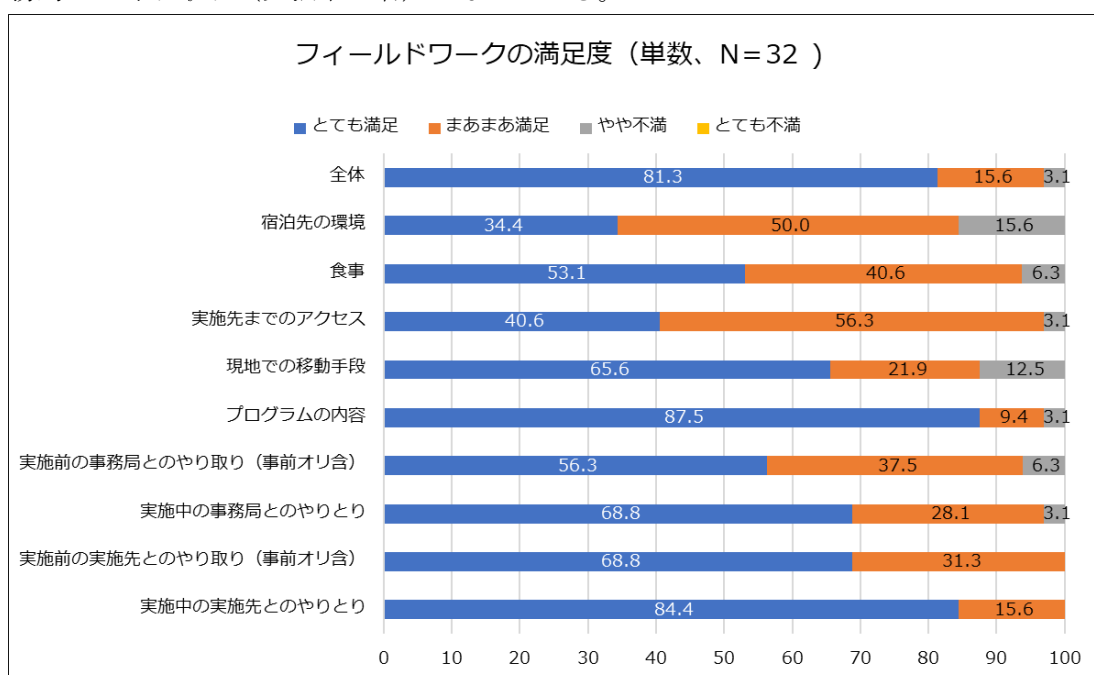


#### ④フィールドワークの満足度

全体では、1名を除き、ほぼ全員から満足の評価をいただいた。

項目別では、プログラムの内容に対する評価が高く、宿泊の環境に関する評価が低い傾向がある。実施先別では、全体に関する満足度について、夕張市と喜茂別町より、和寒町、浦河町、京極町の評価が高い傾向がある。

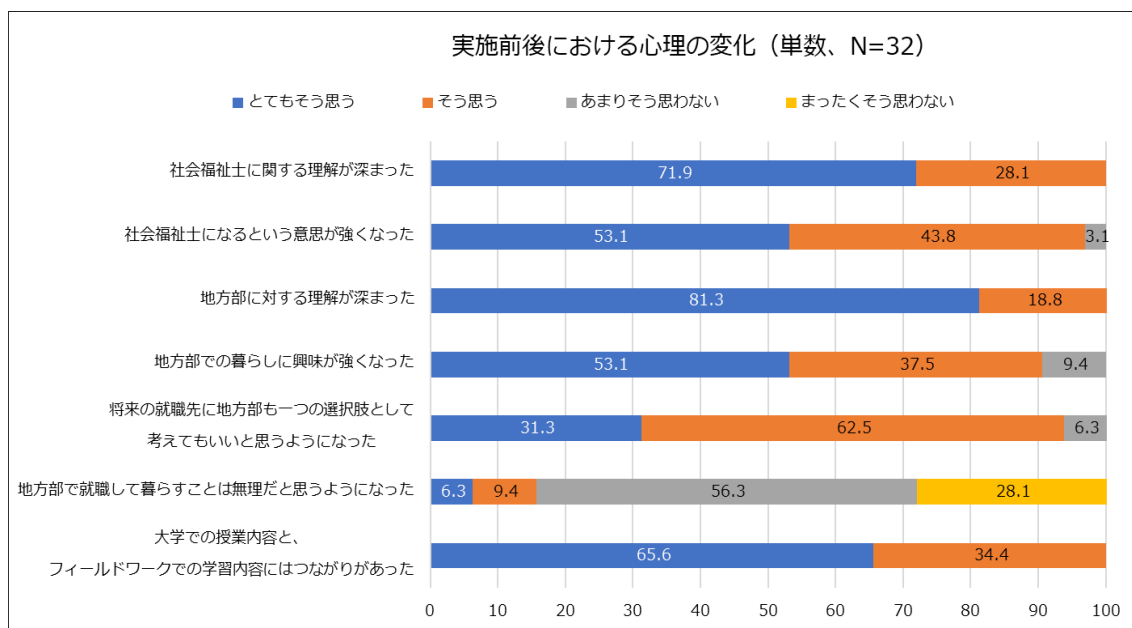
実施先別における各項目に関する満足度について、「やや不満」と評価しているのは、宿泊先の環境（夕張市4名、浦河町1名）、食事（浦河町2名）、実施先までのアクセス（浦河町1名）、現地での移動手段（夕張市2名、和寒町1名、浦河町1名）、プログラムの内容（喜茂別町1名）、実施前の事務局とのやり取り（夕張市1名、喜茂別町1名）、実施中の事務局とのやり取り（夕張市1名）となっている。



上段:度数 下段:%	今回のフィールドワークの満足度（全体）				
	合計	とても満足	まあまあ満足	やや不満	とても不満
全体	32 100.0	26 81.3	5 15.6	1 3.1	-
夕張市	6 100.0	1 16.7	5 83.3	-	-
喜茂別町	9 100.0	8 88.9	-	1 11.1	-
和寒町	3 100.0	3 100.0	-	-	-
浦河町	10 100.0	10 100.0	-	-	-
京極町	4 100.0	4 100.0	-	-	-

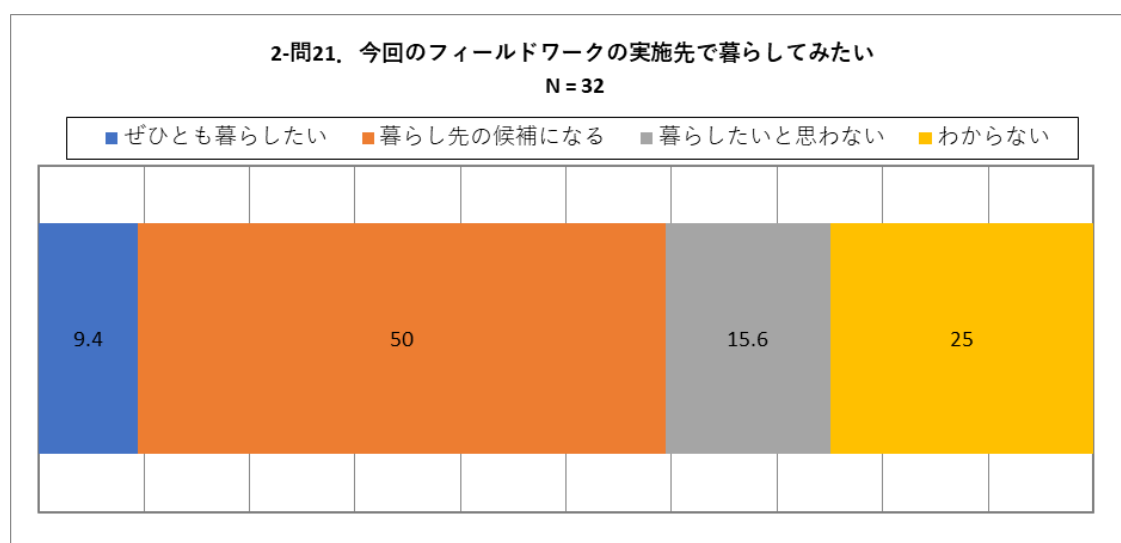
## ⑤実施前後の変化

地方部に対する理解や興味、社会福祉士に対する理解が深まったという回答が多かった。一方、「地方部で就職して暮らすことは無理だと思うようになった」という回答が15.7%となっている。

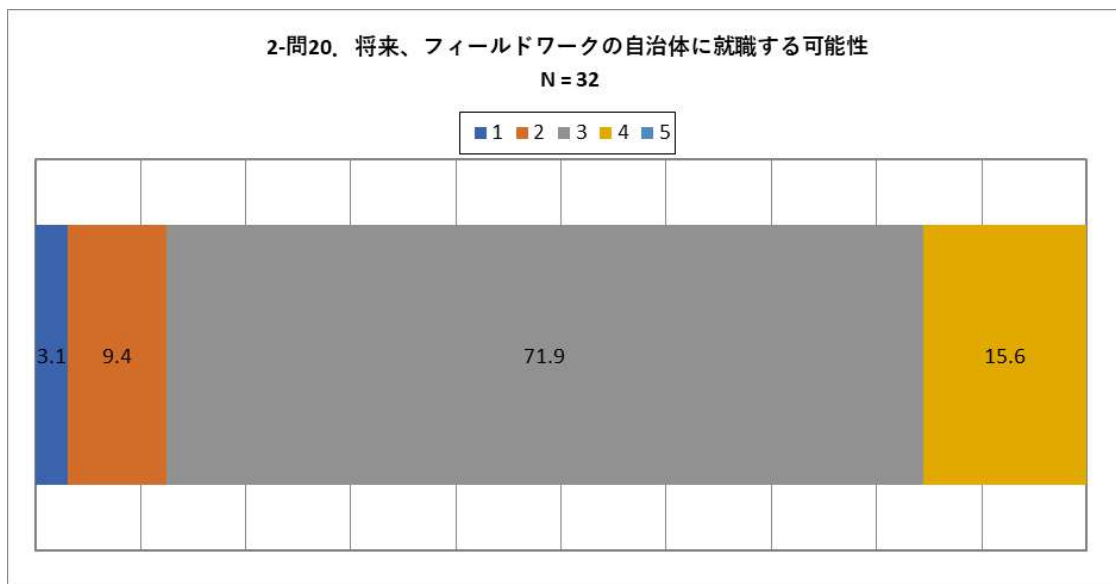


## ⑥フィールドワークの実施先で就職や生活する可能性

実施先で暮らす可能性について、「暮らしの先の候補になる」が半分で、「ぜひとも暮らしたい」が9.4%となっている。



実施先に就職の可能性について、1はとても低い、5はとても高いという基準を設定して確認した結果、3と回答の方が7割強となっている。実施先別では、夕張市と喜茂別町より、和寒町、浦河町、京極町の可能性が高い傾向があった。



上段:度数 下段:%	将来、フィールドワークの自治体に就職する可能性					
	合計	1	2	3	4	5
全体	32 100.0	1 3.1	3 9.4	23 71.9	5 15.6	-
夕張市	6 100.0	-	2 33.3	4 66.7	-	-
喜茂別町	9 100.0	1 11.1	1 11.1	5 55.6	2 22.2	-
和寒町	3 100.0	-	-	2 66.7	1 33.3	-
浦河町	10 100.0	-	-	10 100.0	-	-
京極町	4 100.0	-	-	2 50.0	2 50.0	-

## 4. 事後インタビュー調査

### (1) インタビュー調査の概要

地方部における学生のフィールドワークの実施成果と課題を明確にするため、フィールドワークに参加した学生を対象に、アンケート調査の後、Zoomにてインタビュー調査も実施した。

#### 【調査日程】

グループ番号	実施日程	参加者
①	10月16日(月) 13:00~15:00	5名
②	10月17日(火) 9:30~11:30	9名
③	10月18日(水) 14:00~16:00	9名
④	10月24日(火) 19:00~21:00	10名

### (2) インタビュー調査の結果

#### ①結果のまとめ

##### 【一番得たもの、学んだこと】

- ・ 「学校で理論的に習った知識を現場でどのように実現されているか、リアル的に体験できた」や「専門職として、地域住民とのコミュニケーションの取り方や関わり方を実践的に勉強ができた」、「地方には悪い面ばかりではなく、人と人の距離が近いことや人が明るいこと、福祉分野が進んでいることもあることがわかった」等の声が多かった。

##### 【福祉の仕事への興味や関心の変化】

- ・ 参加者全員から、興味や関心が高まったという回答をいただいた。
- ・ 現場にいる社会福祉士の能力を見て、「とてもかっこういい」や「社会福祉士への憧れが強まった」等の声が多かった。
- ・ 大学に入学当時、福祉という専門を選んだ理由は明確でなかったが、今回の経験で将来の目標が明確になった声もあれば、もともと障がいや児童分野に興味はなかったが、今回の経験で高齢分野等への興味が湧いてきたという声もあった。

### 【地方部に関する認識の変化及び実施先での就職可能性】

- ・ 地方部に対する印象は、「交通や買い物が不便だという従来の印象がさらに深まった」という声が多かった一方、コンビニや飲食店が少しあるし、車があれば思ったほど不便ではなかったという声もあった。
- ・ 地方部に対する新たな認識として、人と人の距離がとても近いことを例として挙げた方が多かった。それに対して、憧れの生活でそういうところで暮らしてみたいというプラスの評価を出している方もいれば、プライベートが守られない心配もあり、ややマイナスの評価を出している方もいる。
- ・ 実施先の自治体で就職して暮らす可能性について、ハード面における不便等で可能性がほぼないという少数派もいれば、ぜひともと回答した方もいたが、ほとんどの方は、まだ決められないが、地方で就職するという視野が広がったと回答した。

## ②一番印象に残ったこと（実証地域別）

### ◆ 喜茂別町

- ・ グループワークでの事例検討は、情報が学校での学びよりリアルだった。
- ・ 町長と話す機会はなかなかないので、町長インタビューからクイズを作成することが印象的だった。
- ・ 色々な人が集まって一人の子のために会議をするのが田舎ならではの。役場の職員だけでなく、喜茂別で働いている人は信念をもって何が必要か考えて働いている姿が印象に残った。
- ・ 障がい者施設を見学に行った際に、知的障害の重い人はあまり話ができないと思っていたが、職員と利用者が仲よくコミュニケーションをとっていたことが印象的だった。
- ・ ケース会議を見学した際に、重たい事例で、担任の先生や保健室の先生、教育委員会の人、社会福祉士など、数多くの専門職が集まってやっているのが印象に残った。
- ・ 障がい者施設の祭りのボランティアに参加したことが印象に残った。出店で障がいのある人と商品を渡す担当だったが、思ったよりコミュニケーションをとってくれたので、楽しかった。
- ・ 地方に行ったことはないのですが、喜茂別町や近い町に連れて行ってもらい、田舎の街並みが印象に残った。
- ・ 自分が授業で聞いたことを実際に体験できた。子育て支援会議は社会福祉士が担任や親と会議をすることだと勉強したが、実際には教育委員会や学童の先生も参加していて、想像より多くの人に関わっていた。



◆ 浦河町

- ・ まだ1年生なので実習の経験がなかったが、色々な事業所に回れて勉強になった。実習でなければ経験出来ないことをたくさん経験できた。
- ・ イチゴ農家と連携して捨てられてしまうイチゴもヘタ取り等の仕分け作業で利用者の暮らしを充実させていることは、町全体で取り組んでいることが印象に残った。
- ・ 利用者と一緒にイチゴのヘタ取りの作業をしたことが印象に残った。作業自体は簡単なものだと思っていたが、実際にやると量も多く、集中力やスピードも必要で、利用者の作業の速さを見て感心した。
- ・ 障がい者の方がイチゴのヘタ取りをする、実際に自分たちが取って農業と福祉が連携していることが印象に残った。
- ・ 不登校の子どもと一緒に遊んだことが印象に残った。あまり話せない子と聞いていたが、遊んでいるうちに気を許してくれたのか話してくれるようになった。
- ・ 小さい町だからこその様々な施設が連携しているところが印象に残った。
- ・ 児童デイに行って、そこに来ている子と関わってほしいと言われたけど、自分があまりうまくかわれなかった。話しかけても無視された。いい経験にはなったが、授業では子どもとの関わり方は習わないので想定外だった。

◆ 夕張市

- ・ おばあちゃん（70 後半）に夕張を全部案内してもらい、その人にしかわからないような夕張の歴史を教えてもらった。
- ・ ケアハウスに2回行き、そこで触れ合った80代の高齢者がみんな自分の意思をもってやっていた。夕張は破綻で活気がないイメージだったが、みんな前向きに捉えて明るい雰囲気だったのが印象に残った。
- ・ 市民と話し合う時間で、市の職員のみならず、市民一人ひとりが夕張の未来を考えるのが狭いコミュニティならではと思ったので、印象に残った。
- ・ 昔炭鉱だったことを知らなかったので、石炭博物館に行ったことが印象に残った。
- ・ 町の人々の良さを感じられた。炭鉱で昔苦労されたが、今の若い人たちにその時起こったことを前向きに捉えているところを見て、すごいと思った。

◆ 和寒町

- ・ 札幌から来た学生には接しづらいかなと思ったが、現地の職員や住民がフレンドリーに接してくれたのが印象に残った。
- ・ 職員も地域の人でも一対一で話している。お店に行ったときに美味しいご飯の作り方を教えてもらい、小さなコミュニティだからこそのつながりが印象的だった。
- ・ 住民の話が出たときに、その人とわかっているほど、町民同士の深い交流が印象に残った。

◆ 京極町

- ・ 人と人とのつながりが強い。福祉施設の人がみんなのことを知っている。地域で一体的になって、目に見えてわかりやすく、人とのつながりを大切にしていると感じられた。
- ・ 温泉と星空が印象的で、羊蹄山がきれいで街灯もなく暗くて綺麗だった。田舎生活が憧れになった。
- ・ 一度住んでみたいと思える町だった。町の人たちの仲が良く、誰とでも対話ができる関係。あそこの近所の●●さんはこんなことに困っているらしいよ、が良いなど感じた。プライベートがすべて筒抜けになったら嫌になるけど、暮らしてみないとわからない。

③得たもの、学んだことで最も大きいこと（実証地域別）

◆ 喜茂別町

- ・ 移住者との話で、やりたいことを仕事にするよりも、自分の生活したいスタイルで仕事を選ぶ、という話を聞いて感銘を受けた。これまで「やりたいこと」とはわからなかった。「どんな生活をしたいか」で仕事を選ぶという発想が新しかった。
- ・ 職員と地域住民との距離について考えを見直した。大学の授業では、距離が近すぎても遠すぎてもいけないと学んでいたが、近いことが悪いことではないことを感じた。近いからこそニーズを拾いやすく支援しやすい。学びと実際が違うことを実感した。
- ・ 人と人とのつながりの大切さを学んだ。人脈、横のつながりを持つことで可能性が広がると思った。
- ・ 地方部ならではの福祉の取り組みの良い点や課題を現地の人に直接聞けるのが、授業ではない、良い経験となった。
- ・ 授業で聞くだけでなく、現場を直接見ることができたのがよかった。
- ・ 社会福祉士の仕事幅広い、実技や経験が必要であることが勉強になった。
- ・ 地方部だからこそ、人との距離が近い。距離が近いからこそ、一つの事例に対してたくさんの方が集まっても、関わる人がもともと情報を持っているので、スムーズに行けることが勉強になった。

◆ 浦河町

- ・ これまで障がいの勉強をする中で、精神障がい者とどう接すればいいのか緊張して変なフィルターを持ってしまっていたことを知った。みんな普通に接することができた。学校では講義だけで、直接触れ合うような機会はなかったので、貴重な経験となった。

- ・ 高齢者から小さい子どもまで、町全体で支えようとしていたことが勉強になった。
- ・ 東町診療所では、精神障がいのある人が楽器を一人一つ持って好きなように鳴らす音楽療法を見て、福祉の現場をリアルに知ることができた。
- ・ 学校で教わらないことを実際に体験することができた。
- ・ 地域包括ケアは絶対不可能だと思っていた。秋田に住んでいたとき、秋田の人とコミュニケーションを取ることがなかった。実際にこんな風に関わっているんだと見て勉強になった。
- ・ 当事者研究は大学の授業で名前だけ聞いた程度だったが、今回実際に現場で体験できて、当事者が悩んでいるものは自分たちとの共通点もあると勉強になった。
- ・ 障がい者の病気を治すために薬を使って治すだけじゃなく、地域の仲間の力で病気を治していく方法を学んだ。

#### ◆ 夕張市

- ・ 『高齢者多い、財政破綻』=くらい、悪いイメージであったが、そうじゃないことを感じた。
- ・ 人の少ない地域で暮らしている人が感じていること、生活して思っていることを聞いたのが学びとして大きかった。思っていたより、人が明るかった、活気があり皆さん楽しそうに生活している。
- ・ 市の職員と住民の距離感が近い。職員も活発で自分から声をかけて話をしていくことで、日常的な会話からしか得られない情報があると感じた。そういったフランクな関わり方の大切さがわかった。
- ・ 夕張市の人が財政破綻して大変な生活をしているかと思ったが、実際には異なり、高齢者も元気な人が多かった。人との距離感も都市部では見られない近さで、想像と現実が違った。人とのつながりを学べたのが良かった。
- ・ 子どもたちの居場所（はまなす会館）で放課後子どもたちと一緒に遊んだ。人とのつながり、居場所が大事と思った。

#### ◆ 和寒町

- ・ 現地の職員が利用者をどのように理解して接しているのかを知ることができた。学校で学んだことを職員が自然にやっていたのが勉強になった。
- ・ 福祉の現場を知れたので良い経験だった。田舎で働くという選択肢が増えた。1年生の時に経験できたのが大きいと思った。
- ・ 職員が利用者本人だけでなく、家族のこと、病院の利用回数などの情報を、会話の中で自然に聞き取っていく。事務的な会話でなく、日常的な会話の中でお互いの信頼関係を築いていることを学ぶことができた。

#### ◆ 京極町

- ・ 小さい町なので地域の人達の関わりが深く、温厚である。地域の人だけでなく、社協の人と地域の人がお互いにわかり合っているところが勉強になった。
- ・ 町の人たちが仲良くて素敵と思ったが、とあるイベントに参加したときに、対人関係で悩んでいる人の話を聞いた。見えているものがすべてではないと勉強になった。
- ・ 現在取り組んでいる福祉政策や今後京極町が目指す町の形という話を深く聞けて、いい経験になった。京極町のファンになった。京極町に行けるのであれば、大学での学びを深めてもう一度見てみたい。

#### ④福祉の仕事への興味や関心の変化（実証地域別）

#### ◆ 喜茂別町

- ・ 興味は高まった。社会福祉士の担当者の利用者との距離の測り方がとても上手だった。アイスブレイクの手法が自然できれいだった。専門職としての能力を目の当たりにして、憧れが強まった。
- ・ 興味関心は高まった。地域住民の認定調査に同行したときに、調査内容からだけでなく、自然な中の動作やしぐさ、言動、住環境全体をみて情報収集しているスキルがすごいと思った。
- ・ 興味が高まった。実際に働く現場を見せてもらい、職員が本やネットで勉強してスキルを向上させ、利用者と出かけできるようになったという話を聞いたときに、一人の利用者に向き合っている職員の姿のがかっこういいと思った。
- ・ 行く前は地方部に関心はなかったが、行ってみて地方部も良いと思った。福祉はもともと興味があったが、地方にわざわざ行こうという気はなかった。地方だと、社会福祉士や専門職が必要とされ、頼られていると実感して、地方部の魅力を感じた。
- ・ 施設を訪れたりケース会議に参加したりして、困難を抱えている人や支援を必要としている人が多くいるのを見て、福祉への関心が高まった。
- ・ 施設の職員に話を聞いたとき、自閉症の人は、入所当初職員の話も聞かずに大変だったが、職員同士で交流して対策を考えたことで今は職員とも仲良くなれたという話を聞いた。今まで社会福祉士になりたいと思っていなかったが、それを機に社会福祉士への関心も高まった。
- ・ 社会福祉士になったとして今後何が必要になってくるのかを考えることができたので、福祉の仕事への興味関心が高まった。
- ・ 関心は高まった。もともとそんなに明確な目標をもって入学したわけではなかった。今回実習で学んだことを今後授業で学ぶときに照らし合わせたいと思った。

◆ 浦河町

- ・ 意欲関心は高まった。これまで現場を見る機会がなかった。児童の分野には興味がなかったが、放課後デイへ行って、子供と関わることは、イコール家族や学校とのつながりが重要となるという話を聞いて、関心が強まった。
- ・ 福祉職はどのようなものか授業以外で聞いたことがなく、あまりわかっていなかった。実際に現地で多職種のミーディングに参加し、利用者をみんなでサポートする姿を自分の目で確認してすごい仕事だと感じて関心を高めることができた。
- ・ 関心が高まった。最初は、福祉と言ったら、高齢者や障がい者のイメージしかなかったが、精神保健福祉士も良いと思うようになり、仕事の幅が広がった。
- ・ 放課後等デイサービスに車で送ってもらっているときに、児童デイに来ている子とちょっとした話をしている中で虐待を受けている可能性に気付いた話を聞いた。福祉で実際に人を救えると思い、福祉への関心が高まった。
- ・ 興味は高まった。入学前は特に福祉で働きたいとは思っていなかった。浦河で、職員の人と障がい者との関わりを見て、自分もそういうところで働きたいと思った。
- ・ 興味関心は高まった。1年生ということで、授業で多職種連携は大事、専門職は現場で孤立してはダメと言葉では言われていたが、想像できていなかった。実際に仕事場を見て実感ができて、できる支援の幅が広がると感じた。
- ・ 元々社福祉になりたかった。関心が深まったというより、働く実感が湧いてきたという方が近い。

◆ 夕張市

- ・ 社会福祉士を目指していききたい気持ちが高まった。来夏、ソーシャルワーク実習があり、場所を決める予定であるが、どの分野がいいか、どの地域がいいか等漠然としていた。今回の経験を通じて、自分の行ってみたい分野や実習先のイメージが出てきた。
- ・ 意欲や興味が伸びた。もともと障がい者関係の福祉につきたいと考えていて、介護の方にはあまり関心がなかったが、実際に介護の施設に行って、思ったより楽しそうに働いているので、介護の方にも少し興味を持つことができた。
- ・ どちらかというが高まった。役場の人との会話からやりがいのある仕事だと感じた。地方福祉への関心が高まった。
- ・ 関心が高まった。放課後等デイサービスで子どもと一緒に遊んだり、障がいのある人とカフェの準備をしたりした。意外と仲良くなれた。今でもLINEで連絡を取って遊ぶ約束をしている。偏見を持たずに接することが重要だと勉強になった。
- ・ 関心は高まった。大学の座学だけでは完全には理解できなく、今回のフィールドワークの機会で実際の福祉の仕事を見て社会福祉士の仕事を理解できた。これからも機会があれば福祉の仕事場などに行き行って学んでいきたい。例えば夕張市では町を明るく活性化していくために、ネットを利用して、夕張市を知らない人に今の夕張市の取り組みを伝えているところを見て素敵と感じた。

◆ 和寒町

- ・ もともと福祉職への関心は高かった。訪問の時に利用者の嬉しそうな顔を見て、その場にいさせてもらったことで今までより関心が高まった。
- ・ 福祉に対して興味関心がすごく高まった。大学で社会福祉士になろうと思っていたが、特に理由は見つけられなかった。行く前は自分のやりたいことなんだろうと迷っていたが、福祉の現場を体験して、人とつながっていくことが社会福祉士の仕事なのかなと実感し、福祉に対する興味が高まった。
- ・ 興味関心が高まった。実際に働いている職員について、見たり体験したりすることで社会福祉士の仕事の理解が深まり、自分もやりたいと思った。

◆ 京極町

- ・ 興味が高まった。今回同行してくれた駒田さんと町の人が話している様子を見て、町の人が困っていることを聞いて、すぐ事務所に連絡するよと言った直後に電話をしていたという行動力を見て、まさに福祉の理想的な人、THE 福祉というような人だと感じた。この人と話している人が全員笑顔になっていて、自分もそういう人になりたいと感じた。
- ・ 関心高まった。同じ大学の実習に来ている先輩の姿を見て、自分もなりたい、かっこいいなと感じた。
- ・ モチベーションが上がった。福祉職の人と話を聞くことで、様々な働き方を知った。職に就いてから、経験を通してから社会福祉士の資格を取るなど、道は一つではないと感じた。固定概念が払しょくされた。

⑤地方部に対する認識の変化（実証地域別）

◆ 喜茂別町

人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員同士の距離が思っていたより近く、連携しやすい＝支援のしやすさにつながっていると感じた。距離が近いことで、何でも伝えあえる場面を多く見れた。</li> <li>・ 自分が考えていたよりも、住民同士、役場の職員同士、住民と役場職員…それぞれ距離が近かった。</li> <li>・ 印象が変わっていない。静かで人が少ない。自分の時間を大切にできるし、ほかの人にストレスを抱えずに過ごせることもできることがいい点で、事業やイベントがあった時に人手不足に困ることもある。</li> </ul>
町のハード面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食店が町より遠い。冬になったらもっと大変だと思った。</li> <li>・ 街燈があまりなかった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通手段はない。飲食店も少ない、娯楽施設もない…不便が多い。</li> <li>・ 車がないと、高齢者が1人での生活だという認識が強くなった。</li> <li>・ 子どもの遊ぶ場所があまりないのが不便だと思った。</li> <li>・ 行く前はもっと不便かなと思っていたが、行ってみるとコンビニやスーパーもそろっていてご飯にも困らなかったの、思ったより何とかかなと思った。</li> <li>・ 思っていたよりも暮らしの不便さを感じなかった。何もないし大変そうだなと思っていたが、スーパーもあるし、少し車を出せば薬局もある。大きな家具はネットショッピングで札幌とあまり変わらずに買える。そこまで不便ではないと思った。</li> <li>・ 不便だという印象は変わっていないが、遠隔で治療を受けたりして、いいところもあると感じた。</li> </ul>
--	---

◆ 浦河町

人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想像より、若い人や子どもが多かった。住んでいる人たちの距離がみんな近かった。札幌よりも人が温かかった。</li> </ul>
町のハード面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローソンが隣町しかないと聞いて衝撃的だった。それ以外のコンビニも遠かった。</li> <li>・ 前に授業で福祉と自動車は深くかかわりがあると聞いたが、あまり実感がなかった。現地へ行って、歩いている人もほとんどおらず、ほぼ車で移動していた。高齢者の免許返納する人も少なくなると思った。</li> <li>・ コンビニも宿泊所の近くにあって、思ったより住みやすいと思った。</li> <li>・ 車があれば意外と不便でないと思った。周りにスーパーもコンビニも飲食店もドラッグストアもあったので、生活必需品を買うには不便なく生活できると思った。</li> <li>・ 大きな商業施設に行くにも車で1時間以上かかるのが不便。</li> <li>・ 田舎は老人ホームが多いと思っていた。実際はそんなことはなく、児童精神があつたり、都心部より福祉活動が盛んだと感じた。人口が増えると専門職の関わりがうまくいかないのが課題だと再認識できた。</li> <li>・ 何もないと思っていたが、ご飯屋さんも多く、メンバーとどこに行くか探すか楽しかった。不便かどうかはわからないが、行くところはあるんだという印象だった。</li> <li>・ 交通の便が悪いのはイメージ通りだった。田舎は何もない、シンプルというイメージだったが、地方だからこそ輝く魅力があると思った。</li> </ul>

◆ 夕張市

<p>人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と人の距離が近い。放課後デイ、B型に行った時、子供たちや利用者が少ない分、それぞれのやりたいこと、要望や、その人の特性等、これらを実際の活動に反映させたり、考慮したりできることが地方ならではのと思った。</li> <li>・ 財政破綻で活気はないと思って行ったが、人は明るくて温かくて、楽しそうな街という印象を受けた。</li> <li>・ もともと田舎はコミュニティが狭いとは思っていて、情報はすぐ伝わると思っていたが、実際に行ってみて、想像よりはるかに情報が伝わるのが早い。つながりも思ったよりあり、みんなどこかしらで知り合ったりつながったりしているとわかり、地方部に対する印象が変わった。それについて、どちらかというプラス寄りに考えたが、マイナスな感情もある。</li> <li>・ 町の人々のつながりは好きだと感じた。</li> </ul>
<p>町のハード面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦長で、車がないとどこも行けない。</li> <li>・ 買い物の時間が限られるのはつらいと思った。公共交通機関もタクシーも閉じる時間が早く、飲みに行っても帰れないことがあるというのがつらいと思った。行く前からイメージはあったが、行ってさらにリアル感が増した。</li> <li>・ 地方部は、思ったより暮らしに不便さを感じなかった。自分も田舎に住んでいて、買い出しの際に町外に出ることが多い。夕張は意外と飲食店など町内で済ませられるのが、あまり不便ではないと思った。</li> <li>・ コンビニにATMが必ずあるわけではないのが不便だと思った。</li> <li>・ 元々地方に住んでいたもので、印象は変わっていない。交通の辺は、夕張の地形（縦長）で、バスもあるが、車でないと移動が大変だと思った。</li> </ul>



◆ 和寒町

人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田舎は何もないというイメージで、一人で行って安らぐというイメージだったが、実際に行ってみて、人とのつながりが実感できた。自然豊かなだけではないというのが印象に残った。</li> <li>・ 隣の家の人が朝から畑作業をしているときに、窓から見えるので、プライベートがなくなってしまうという話を聞いたときに、つながりが近すぎるからこそ気になってしまうのが不便さだと感じた。</li> <li>・ チャイムを鳴らさずにすぐにドアを開けることに恐怖感を感じた。</li> </ul>
町のハード面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町のはずれに住んでいる人は買い物も時間がかかり大変だと思った。</li> <li>・ 高齢者の買い物が難しいことが不便だと思った。</li> <li>・ 病院、交通の少なさが気になった。通院回数、交通手段を考えても、タクシーが一台しかなく、夜になったら終わってしまう。病院も入院できるものがなく診療所しかない。</li> <li>・ 札幌に比べての本数やタクシーの少なさが不便だと思った。</li> <li>・ 医療資源が限られているので、緊急事態が起きた時の対応が難しいと思った。例えば、心臓発作などすぐに処置しないといけないときに、ドクターヘリを待たないといけない、救急車が一台しかない自分や大事な人が助けてもらえないというのが不便だと思った。</li> </ul>

◆ 京極町

人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田舎＝高齢者が多いイメージ。もちろん多かったが、外国人が意外と多かった。外国人は札幌など栄えている町に行くと思っていたが印象が変わった。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行く前は田舎は福祉の発展があまりしていないと思っていた。実際は田舎の方は発展している。狭いからこそできることが多いと再認識できた。小さい地域での取り組みもいいところがあるので、札幌等が小さい地域の取り組みにも目を向けていくといいのかなと感じた。</li> <li>・ 地方は行く前と行く後の認識は変わっていないが、福祉に手厚いところがあると感じた。日本は福祉に対して壊滅的と感じていたが、今回の経験で、日本にもすごいところがあると考えを変えた。</li> </ul>

## ⑥将来、実習先で就職して生活する可能性（実証地域別）

### ◆ 喜茂別町

- ・ 可能性は小さい。理由は車の免許を持っていない、これから免許を取る気持ちもないからである。交通整備が整っていたら、可能性は変わってくる。
- ・ 可能性は小さい。人との距離の近さゆえに、何か負のことがあれば、広まるのも早い。逃げ場がない。プライバシーのことを考えると、生活するのが難しい。
- ・ ほしいものがある時に毎回1時間かけたり交通費をかけたりすることを考えると、地方での就職がないかなと思う。
- ・ 行く前は地方で暮らしたいと思っていたが、行ってからハードルが上がった。人が少ないから少数精鋭で、新卒から田舎で就職するのは難しいと思った。でも喜茂別の温かい雰囲気が好きになったので、キャリアを積んでから働きたいと思った。喜茂別町で少数精鋭の専門職を育てるプログラムがあったら行きたいと思う。
- ・ まだあまりイメージは湧いていない。車の免許を取ったら可能性はあると思う。
- ・ 前向きに候補として考えているが、他の地方の現場も見て合わせて考えてみたい。  
(2名)
- ・ 可能性は半々。人は温かくていい所と感じたが、人と人との近い距離は自分的には少し苦手。もっと経験を積んで、知らない人と話すことになればできるかもしれない。

### ◆ 浦河町

- ・ 可能性は今はない。卒業後は札幌で遊びながら、便利なところで働きたい。もっと年をとってから自然豊かなところで過ごしたいという想いはある。
- ・ 現地へ行く前、札幌など都心の方が暮らしやすいと思っていたが、行った後は視野が広がった。
- ・ 今のところ五分五分の感じ。札幌の便利さに慣れているので、買い物で時間をかけるのが不便になるという印象がある。ただ、浦河町で最近自主性を育てている幼稚園があると聞き、子どもを育てていく地域としてはよいと思った。
- ・ 地元周辺で働きたいとは思っているが、選択肢の中に入れるのは良いと思っている。浦河町では住民の距離が近いので、一人暮らしで町に行っても助け合えるので良いかなと思う。一方で、大きな買い物を考えると、車を持ったとしても大変かなと躊躇している。
- ・ まだ決められない。地方にチェーン店がないのを聞くと、札幌で働きたいと感じる。今後福祉をやりたい気持ちが強くなったら、地方もありかもしれない。
- ・ 若いうちから地方に住むのはもったいないと感じる。地方には出会いや学びが少ないので、地方で働くのは若いうちは可能性はなし。
- ・ 就職は地元の旭川でしたいと思っていたが、今回を機に、社会福祉として働くのはいろんな人と出会って学習する面もあると視野が広がった。いろんな地域を見てみたいと思うようになった。

◆ 夕張市

- ・ 可能性は少しある。実家の犬と一緒にいたいので、札幌で公務員になりたい。札幌から通えるなら、夕張もありかなと思う。
- ・ 夕張は素敵だが、生まれも育ちも長沼町で、19年間生活した場所で、思い入れが深い、お世話になった人や場所に恩返しをしたい気持ちが強い。将来地元で就職したい。
- ・ 可能性は中ぐらい。生活での不便性が目立つところもあった。人とのかかわりが近いのは、つらい時もあると思うが、個人的には働いていて楽しいと思う。
- ・ 地方部に住むとはもともと考えていなかったが、実際に行ってみて住むのもアリだと思うようになった。自分は人と話すのが好きで、地方だと近所づきあいが盛んだった印象を持ち、自分の中では良いことだと思ったので、住むのもアリだと思った。
- ・ 夕張市しかわからないので、もっと他の地方も見たい。地方で暮らしたいと考えている。

◆ 和寒町

- ・ 職場も住民も温かい雰囲気、人の温かさに触れて働けるのは、働く環境としてはすごく良いと思った。イメージとしては前後でかなり変わった。
- ・ 地方で暮らし働くのは、行く前はゼロに近かった。実際に行ってみたことで、交通は想像通りだったが、職員やそれ以外の方が車を運転するサービスをしたり、できることをがんばっている姿を見て、地方で働く可能性も広がった。
- ・ もともと札幌を出たいと思っていなくて地方での就職希望はなかったが、和寒町は不便さを上回るくらい人が温かく、暮らしてみたいと思った。地方で暮らす、働く可能性が高まった。

◆ 京極町

- ・ 地方と都心は半々。冬の雪が心配。京極町では家を建てたら100万円もらえるので、暮らす可能性はある。
- ・ 可能性は半々。もともと、絶対田舎は無理と思っていたが、今回参加して、田舎もありと思うようになった。京極だから、というのはある。
- ・ 可能性は半々。京極町は2人だけ山奥の先の家に住んでいる人がいた。その2人のために、冬は雪かきをしていると聞いて、仕事の大変さを感じた。あまり都会・田舎というように考えていない。自分が楽しく過ごせる町が良い。

⑦課題

プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終日は「帰る時間」を考慮して、午前のプログラムがバタバタしてしまいもったいないと感じた。最終日は、移動日のみとしたほうが良い。</li> <li>・ 1日目と最終日が半日移動に使っていたので、5日間という感じではなかった。もう少し長くても良いかなと思った。</li> <li>・ チラシで掲げている内容と実際が違った。内容が「地域福祉一色」だった。障がいや、放課後等デイ、介護等掲げている目的に期待して参加した人は少しきょとんとしていた。</li> <li>・ 知らない土地で4泊泊まるのが体力を消耗するので、3日目あたりから疲れが蓄積してしまって集中力が落ちてしまった。自由時間がもう少し長ければ睡眠時間も長くなり体力回復できるのかなと思った。</li> <li>・ 昼食時間が1時間で店を探して食べ終わらせるのが大変だった。</li> <li>・ 4泊5日体力がないので、3泊でもいい。1日で終わる時間が早めだったので、3泊にして時間を長くするのもいいかもしれない。</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行く前は現地の担当者との直接の連絡方法がなくて困ったことがあった。</li> <li>・ オリエンテーションで最低限でもよいので持ち物リストは欲しかった。</li> <li>・ 現地までの行き方が、行く直前のオリエンテーションで発表されて、自分たちで調べるのかとわからなかった。行き方を指定するのがもう少し早くしてほしい。</li> <li>・ ホテルを指定してほしかった。</li> <li>・ 領収書のやり取りについて、メールで写真を送るのが大変で時間がかかってしまった。連絡をメールではなくLINEで1つにまとめたほうがいい。</li> </ul>
周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初のチラシをみるだけでは内容が想像しづらかった。チラシをもっと具体的にしてほしい。</li> <li>・ チラシで、行き先の情報が少なく迷った。障害者施設に見学に行けると喜茂別町の欄にかいていなかったが、実際に行けて嬉しかった。</li> <li>・ 友人とでも可と書いてあって不安はなかったが、要望で書いたとしても一緒のグループになるのかなという不安はあった。友人との参加の希望は通りますともっと明確に書いてもらえれば、チラシをもらってすぐに行こうという気持ちになると思う。</li> <li>・ 応募時間が短かったので、友達と相談する余裕がなかった。</li> </ul>
宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (浦河町) ホテルだと思っていたが、実際は違った。暑い日があり、2段ベッドの上がサウナ状態だった。</li> <li>・ (夕張市) 宿泊先の情報を事務局で事前に把握できなかった。</li> <li>・ (夕張市) ホテルがなく、宿泊施設に問題があると感じた。一人部屋にしてほしいわけではないが、衛生面が心配な施設だった。(×2名)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (夕張市) 宿泊施設がコテージのようなものを想像していたが、オーナーがいる民泊でそこがイメージと違った。</li> <li>・ (喜茂別町) キッチンペーパーしかなくもったいなかったのもので、タオルが欲しかった。</li> <li>・ (浦河町) 宿泊先に男性も近くにいることを一言欲しかった。チェックインの時間が宿泊先の人に伝えていた時間と異なっていた。</li> </ul>
現地の移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地の移動手段がなかった。自転車があったらいいかもしれない。</li> <li>・ (和寒町) 天気が悪い時の移動手段などの代案等が考えられなく、時間のロスがあった。(×3名)</li> <li>・ 交通手段は歩きか職員の車で、オプションの映画も歩いて2時間で行くのがはばかられた。</li> </ul>

#### ⑧来年開催に向けた改善点と要望

プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (夕張市) 松宮さんという方のツアーがあり、長年住んでいる方の意見を聞くことができ、これは残してほしい。</li> <li>・ (浦河町) 休憩時間が少なく、ご飯を食べるのにお店に行くと思ふので時間が無くなってしまうと思ったのが改善点。</li> <li>・ 他の人の視点を聞いて理解を深めることができるので、1日の最後の時間に一緒に行ったメンバー同士で振り返りのようなものができたらよかったと思う。</li> <li>・ (浦河町) 役場や社協の人と話をする機会がほしい。役場の人とのつながりはどのようなものか、役場の人や浦河町の住民に対してどのような支援をしているのかの話も聞いてみたい。</li> <li>・ (喜茂別町) 町民にも町の魅力を聞いてみたい。</li> <li>・ (京極町) レジャーがあるとモチベーションが上がる。例えば、3日目午前中に特産品の収穫体験や1日キャンプなどを入れるのも良い。</li> <li>・ (京極町) とても楽しくて学びが多かったので、もう少し期間を伸ばしてほしい。地域の小学生や中学生からの話も聞きたい。</li> <li>・ 昼食のおすすめの場所をプログラムに記載してほしい。</li> </ul>
周知方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙面だけだとイメージがわきにくく不安が大きい。講義等で説明してもらえると、もっと興味が持ちやすい。</li> <li>・ 過去に行った経験のある学生による報告会を実施し、下級生に参加してもらい、生の声で良さを聞けたら、もっと参加しやすい。</li> <li>・ チラシに「友達と一緒に参加できる」や「友達と参加する希望は必ず応じられる」というPRを入れたらもっと参加しやすい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拠点が地方の学生で、現地まで遠いとなかなか現実的にはいけない。札幌で前泊「OK」等を掲げると参加しやすい。</li> <li>・ 周知のタイミングを早めれば、参加者が増える。</li> <li>・ 大学や地方の活動の宣伝にもなるので、今回のフィールドワーク限定の SNS に 5 日間どんな活動をしたか投稿する手法が良い。地域ごとでの活動の違いの魅力を出せたら、選択肢しやすく、参加者が増える。</li> <li>・ 今の人は写真が好きな人が多いので、いい写真スポットがあると周知をかければ、人が増えるかもしれない。</li> <li>・ 地域のことを SNS で伝えるのも良い。実際に地域の方が大学に来て紹介してくれるのも良い。</li> </ul>
宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個室あるいは友達同士の同部屋がいい。</li> <li>・ 宿泊先もどんなところかオリエンテーション時に示してくれたほうがいい。</li> </ul>
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門学校も対象に入れたほうがいい。</li> </ul>
開催地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旭川周辺（喜茂別や東川町）に興味があるため、候補として挙げてほしい</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地へ行く交通手段を事前に教えてほしい。</li> <li>・ 夏休みだけでなく春休みの期間にもあれば嬉しい。</li> <li>・ 日程表を事前に細かく提示してほしい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の単位をもらえると嬉しい。</li> <li>・ 今回は 1 週間の授業が全部欠席扱いになってしまった。公欠扱いであれば、もっと参加しやすい。</li> <li>・ 終了後も、関わった地方の方たちとの関係性が続くようなシステムがあれば、地方で働きたいという想いを持つ人が増える。</li> </ul>

## 5. 今回のフィールドワークの課題及び改善点

プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉一色のみならず、地域の体験等のコンテンツも望ましい。</li> <li>・ やわらかい雰囲気、毎日の夕方あるいは最終日に全体の振り返りの時間が必要。</li> <li>・ 3日間、5日間、3週間以上等、プログラムの実施期間を柔軟的に設定するのが望ましい。</li> <li>・ 最終日を移動日のみとしたほうが良い。</li> <li>・ 昼食の時間をもう少し長めに設定してほしい。</li> <li>・ 悪天候等で当初の予定案が実施できない場合の代行案を事前に準備してほしい。</li> </ul>
周知方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周知期間を長めにしてほしい。</li> <li>・ 各自治体で実施するプログラムの内容等の詳細情報をチラシに記載してほしい。</li> <li>・ 過去の参加者による紹介や地域の方による大学の講義での紹介、インスタグラム等を活用してほしい。</li> <li>・ 友だちとの参加が可能等をもっと強制的にチラシに記載してほしい。</li> <li>・ 拠点が地方の学生で、現地まで遠いとなかなか現実的にはいけない。札幌で前泊「OK」等を掲げると参加しやすい。</li> </ul>
宿泊環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地の宿泊環境等に関する詳細な情報をオリエンテーションの時に参加者に明確に知らせてほしい。</li> <li>・ できればホテルや友達との同部屋が望ましいが、それが難しくても衛生面を最低限に確保してほしい。</li> </ul>
現地での移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車でもいいが、歩行以外の移動手段を確保してほしい。</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールではなく、事務局や現地との連絡手段をLINE等で実施してほしい。</li> <li>・ 交通手段やホテル等を事務局で指定・手配してほしい。</li> </ul>
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の参加者を専門学校も対象者に入れてほしい。</li> <li>・ 旭川周辺や内陸のみならず、海岸地域も対象に入れてほしい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の単位をもらえる形で実施するのがベストだが、難しいなら、授業の欠席にならないようにしてほしい。</li> <li>・ 終了後も、学生と関わった地方の人たちとの関係性が続くようなシステムが望ましい。</li> <li>・ モニター謝金を継続してくれればベストだが、本人からの出費がなしというようにしてほしい。</li> <li>・ 夏休みのみならず、春休みの期間も視野に入れてほしい。</li> </ul>

## 第6章 成果報告会の開催

### 1. 開催概要

目的	本調査研究の成果を報告し、社会福祉士等を目指す若者の地方部での実習機会の拡大に向けた地方自治体や介護・福祉施設等の受入れ先、養成校における機運醸成を図るとともに、こうした取組を通じた地方創生や地域共生の推進可能性について考えることを目的に開催した。
日時	2024年3月29日（金）13：30～16：30 【(交流会) 16：45～18：00】
場所	北海道医療大学の札幌サテライトキャンパス（「アスティ45」12階）
方式	ハイブリッド（現地開催及びZoomによるオンライン開催）
対象者	道内の自治体や介護・福祉施設、養成校教員・学生など
プログラムの内容	<p>冒頭あいさつ【5分】</p> <p>第1部 本事業の説明【10分】</p> <p>第2部 3者鼎談【60分】</p> <p>【テーマ】「人づくりと地3者鼎談 域づくりによる地域オリジナルティの構築」</p> <p>【登壇者】</p> <p>アミタホールディングス株式会社執行役員 野崎伸一氏  社会福祉法人ゆうゆう理事長 大原裕介氏  北星学園大学社会福祉学部教授 伊藤新一郎氏</p> <p>第3部 学生の発表【30分】</p> <p>【テーマ】「京極町、浦河町、喜茂別町におけるフィールドワークの実施報告」</p> <p>【登壇者】</p> <p>北星学園大学（高橋響氏、鈴木悠々氏、松本一志氏、平井優多氏）  北海道医療大学（松永怜子氏、藪内天音氏）  北星学園大学（山村莉央氏、豊原佑衣氏、山口衣純氏、正源藍花氏）</p> <p>第4部 パネルディスカッション【60分】</p> <p>【テーマ】「学生の実習受入れを通じた地方創生・地域共生のまちづくりの可能性」</p> <p>【登壇者】</p> <p>社会福祉法人京極町社会福祉協議会事務局長 駒田拓朗氏  一般社団法人らぷらす 代表理事 安斉 尚朋氏  社会福祉法人浦河べてるの家 事務局長 池松 麻穂氏  喜茂別町元気応援課 福祉係 長谷川 悟氏  和寒町保健福祉課 課長 山口 祐樹氏  北海道教育大学教育学部（函館校）国際地域学科・教授 齋藤征人氏  事務局 河原岳郎氏</p> <p>交流会【75分】</p>



【参加者募集用のチラシ】



2. 開催結果

当日は会場とオンラインで合わせて計 47 名が参加した。

第 1 部では、事務局が本研究の目的、学生のフィールドワークの実施概要、アンケート調査の実施結果を報告した。

第 2 部では、野崎氏、大原氏、伊藤氏が「人づくりと地域づくりによる地域オリジナリティの構築」をテーマとした鼎談を実施した。具体的には、3 者が地域共生社会に対する考えを述べたうえ、人生の長い歴史から考えるときの先進社会という価値観の変化等について議論し、地方の可能性について言及した。

第 3 部では、学生の代表者（京極町、浦河町、喜茂別町の 3 グループ）がフィールドワークに参加した前後の心境の変化等を中心に福祉や地方部に対する考えを発表した。

第 4 部では、齋藤氏が道内滞在型の実習の実例を紹介した。また、ファシリテーターの質問を受けながら、登壇者 6 名がそれぞれ①フィールドワークを受入れた手ごたえ；②フィールドワーク内容検討や運営で心がけていたこと、苦勞したこと；③学生の実習受入れ×地方創生・地域共生のまちづくりの可能性について意見を発表した。

最後の交流会では、関係者同士が今年度の取組成果や課題、次年度の展開に向けた参加意欲などについて、交流を行った。

### 【当日の写真】



### 3. 事後アンケート調査

参加者を対象に、成果報告会に関するアンケート調査を実施した。その結果、9名から回答をいただいた。

研修会の満足度について、7名が「とても満足」、2名が「まあまあ満足」と回答した。令和6年度に同様に社会福祉士養成校の学生を受入れる実証事業があった場合に、参加する意欲について、全員からぜひ参加したいという回答をいただいた。

## 第7章 まとめ

### 1. 今年度の実施結果

#### (1) 養成校の学生について

##### ①今年度の成果

ア 学生は地方部での実習に興味があることを把握できた。

- ・ 学生は、養成校から離れた遠方の地方部での実習に興味を持っている。特に地方に関する固定概念が少ない1-2年生の方が実習への関心が高い。
- ・ 一方、自主的に実習先の発掘や、一人で活動するのが苦手な学生が多い。

イ 現在の教育カリキュラムでは、学生の地方部への興味・関心や意識の醸成において課題があることを把握できた。

- ・ ソーシャルワーク実習の実施地域は養成校の近隣市町村が大半である。遠方の地方部で実施するのは、学生の実家所在地や周辺地域が対象となっている。
- ・ 3-4年生は、将来の就職先や働き方も一定程度固まりつつあり、現在の国家資格制度に基づく教育カリキュラムにおける養成校の現状として、地方部への興味・関心や意識を醸成する上での課題も存在する。

##### ②今後必要とされる取組

ア 学生に対する地方部での実習や就職への「動機づけ」

- ・ 地方部への実習や就職に対する「興味」から「行動（＝実習参加）」への動機づけが必要である。
- ・ 動機付けには、養成校や外部からの働きかけ、魅力的な実習プログラム等に関する詳細な情報提供が不可欠である。

#### (2) 養成校について

##### ①今年度の成果

ア 地方部ならではの学びが得られるという意見を持つ教員が存在している一方、地方部の実習を積極的に推進するという養成校のモチベーションが働きづらい現状を把握できた。

- ・ 近隣市町村の施設・機関・事業所へ実習を依頼しており、おおむね実習先の確保に困っていない。
- ・ 実習先が養成校周辺ではなく、遠方の場合、指導教員・養成校の実地指導の負担が大きくなる。
- ・ リスク管理等の理由で、学生を遠くに行かせられないという心配を持っている教員もいる。

## ②今後必要とされる取組

### ア 養成校や教員への情報提供

- ・ 地方部での実習や就職に対する学生のニーズがあることについての養成校（教員）への周知が必要である。
- ・ 地方部における福祉人材不足の実態や地方部の自治体や施設等において学生の実習受入れに対するニーズがあることについての養成校（教員）への周知が必要である。
- ・ 養成校において学生に対する地方部での実習や就職を促進することが、「地域・社会貢献」に繋がることを認識してもらう必要がある。

### イ 教員の負担を軽減できる手法の検討

- ・ オンラインを活用した実地指導の導入により負担軽減と質の維持が確認できる実習プログラムの検討が必要である。

## (3) 実習プログラムについて

### ①今年度の成果

#### ア 実習プログラムの作成が受入れ先にとって負担が大きいという現状を把握できた。

- ・ 地方部での実習は、学生や指導教員にとっても有効である可能性はあるが、マンパワーや経験不足の問題で、受入れ先では実習プログラムを作成することが難しい。
- ・ 学生や養成校が期待する実習プログラムの作成の負担が大きい。各地域によって実習プログラムの内容・質にバラつきが生じる可能性がある。

#### イ 地方部への実習に興味がある学生が参加したくなるプログラムの要素を把握できた。

- ・ 地方部ならではの多様な体験ができること（学生が特定の施設・事業所内で完結する内容に興味が少ない）。
- ・ 参加することで単位が取得できること。
- ・ 費用が掛からない・安価で参加できること。
- ・ 地方部での就職をより意識している学生がより社会福祉士の活動をイメージし、自信を得るために、現地の社会福祉士によるメンタリングが求められている。

## ②今後必要とされる取組

### ア 実習プログラム作成に向けた養成校と受入れ側の連携体制の構築

- ・ 受入れ先の施設・事業所による実習プログラムの開発と運営の実施体制の確保が必要である。

国の指針に提示されているソーシャルワーク実習（240時間）に求められる事項に対応できるよう、養成校と受入れ先との密なコミュニケーションが必要である。

### イ 現在の国家資格制度に基づく教育カリキュラム以外の実習プログラムの可能性の検討

- ・ 学生のニーズに対応しつつ、ソーシャルワークの実践能力を高められることを前提に、ソーシャルワーク実習と切り離れた「外付けプログラム」の導入可能性を検討する必要がある。
- ・ 2-4年生を中心とする既存のソーシャルワーク実習以外に、ソーシャルワーク実習がない1年生を対象とした地方部での実習プログラムの検討が必要である。

### ウ 実習プログラムの運営費の負担の在り方に関する検討

- ・ 実習プログラムに係る費用について、受入れ先の自治体や北海道庁などの公的機関による支援の可能性を視野に入れながら、運営費の負担の在り方を検討する必要がある。

## (4) 受入れ側について

### ①今年度の成果

#### ア 地方部における若者の福祉人材確保に向けた取組に課題があることを把握できた。

- ・ 地方部の施設・事業所や自治体では、社会福祉士や精神保健福祉士が不足している。確保についてあきらめつつある自治体もある。
- ・ 地方部の自治体では、福祉・介護人材の確保に向けた取り組みを行っているが、その効果は限定的である。
- ・ 自治体では地方創生の観点から若者の移住・定住の促進が課題となっているが、福祉・介護人材の確保を目的とした取組との連携は十分とはいえない。

#### イ 学生の実習を受入れる体制が整備されていないことを把握できた。

- ・ 地方部の施設・事業所では、実習指導者が少ない（札幌あるいは道央圏以外の道内市町村で、実習生を受入れた経験のある社会福祉法人は1割程度である）。
- ・ 国家資格制度に対応したソーシャルワーク実習に関するルール等を知らない事業所等が大半である。
- ・ 宿泊先や移動手段等の確保に係るソフト・ハード面の体制が不十分である。

## ②今後必要とされる取組

### ア 受入れ体制の整備

- ・ 広域による連携等の手法を考えながら、実習指導者等の人員を確保できる仕組みの検討が必要である。
- ・ 地域住民の協力を得ながら、宿泊先や移動手段等の確保に係るソフト・ハード面の体制整備が必要である。

### イ 「地方創生」や「福祉のまちづくり」の観点からの連携体制の構築

- ・ 地方自治体と受入れ先が連携した「地方創生」や「福祉のまちづくり」の観点からの取組推進に向けた意識醸成が必要である。

## 2. 今後の展開

今年度の実施結果を踏まえ、地方部で学生が実習を実施する仕組みの構築に向けて、次年度以降は以下の調査を実施する。

### (1) 学生に対する地方部への実習・就職への動機づけ手法の検討に向けた研究

学生に対する地方部への実習・就職の動機づけを目的に、学生経験者や養成校教員、当事業事務局が学生に情報を提供するなどの効果的な手法を検討する。

#### ① アンケート調査

学生のニーズや地域の実情等に関する情報を養成校にフィードバックできるよう、養成校の学生、社会福祉士等を目指す高校生向けのアンケート調査を実施する。

#### ② 説明会の開催

昨年度の実証に参加した学生や養成校教員、事務局が、養成校の学生に情報提供を行うことを目的とした説明会を開催する。

#### iii 実習プログラム開発への学生の参画

①、②の結果をもとに、地方部への実習や本事業に賛同する学生を抽出し、(3)（下記ご参照）の実習プログラムの開発や実習参加者の確保に向けた情報提供等に協力してもらう。

## **(2) 養成校のモチベーションを向上させる効果的な手法の検討に向けた研究**

養成校に対して、学生への地方部での実習・就職を促進するための実施方法を検討する。

### **① アンケート調査**

地方での実習に前向きな考えを持っている養成校や指導教員を抽出するためのアンケート調査を実施する。

### **② 実習プログラム開発に向けた教員の参画**

養成校と受入れ先の施設・事業所、地方自治体による意見交換を行い、養成校に対する人材確保に向けた地域の実情等や実習受入れに対する意向等の理解促進を図る。さらに、地方部での実習内容（案）と、ソーシャルワーク実習目的・内容との整合性の確認を含めて、実習プログラムの開発に指導教員からの協力を得る。

### **③ 地方部の自治体・受入れ施設・事業所の見学**

養成校教員向けに地方部における自治体や受入れ施設・事業所等の見学プログラムを企画・実施する。

## **(3) 地方部を対象とした実習プログラムの作成に向けた研究**

昨年度の結果を踏まえた実習プログラムを開発し、地域での実証を通して、実習プログラムの普及可能性を検討する。

### **① 実習プログラムの開発**

(1)、(2)を通じ、地方部での実習実施に前向きな学生や教員の参画のもと、受入れ側の状況を確認しながら、「多様な体験」、「無料・安価」、「メンタリング」という要素を踏まえつつ、実習プログラムの作成プロセス・方法の普遍化の視点も取り入れながら、地域の特性を活かした多様性のある実習プログラムを開発する。

### **② 実習プログラムの実証**

実証地域を確保したうえで、①で開発した実習プログラムを各地域で実証し、構築可能なモデルを検討する。

また、一部の地域については、オンラインを活用した実地指導の実証を行う。

### ③ 実習プログラムの普及に向けた検討

①の結果に基づき、より多くの地域が低負担で導入できるよう、①で開発した実習プログラムの改善点を検討する（実習プログラム作成プロセス・方法の普遍化の視点を含む）。

### (4) 地方部を対象とした実習プログラムの受入れ体制整備の可能性検討

(3)で作成した実習プログラムを円滑に受入れるために必要な体制及び整備の可能性と手法を検討する。

#### ① アンケート調査

自治体間の連携により、実習指導者など不足する資源を補い合う可能性を検討するため、近隣地域に協力可能な社会福祉士等の発掘に向けたアンケートを実施する。

#### ② 見学会の開催

実習指導者の裾野拡大を目的に、実習指導の経験が不足している地方部の社会福祉士等を対象に、実習経験のある実習指導者との交流機会をつくるとともに、【3】の実証対象地域において、施設等での見学を実施する。

#### ③ 自治体を対象とした勉強会の開催

地方創生や福祉のまちづくりの観点から、地方部での実習受入れに対する意識醸成を図ることを目的に、自治体等を対象とした勉強会を開催する。



### 3. 今後の実証地域の選定について

文献調査やアンケート調査、ヒアリング調査の結果を踏まえ、「2」における研究の実証地域候補を選定する。

#### (1) 若者や福祉分野の人材確保に取り組んでいる自治体

分類	主な取組内容	自治体名
学生お試し移住・定住推進プロジェクトに取り組んでいる自治体	地方創生の一環として、学生の地方への移住・定住を促進	栗山町、石狩市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、芦別市等
「ふるさとワーキングホリデー」を実施している自治体	道内に一定期間地方に滞在し、働きながら地元住民との交流等の実施	東川町、岩見沢市 <sup>※1</sup>
「地域おこし協力隊」を活用している自治体	地域への定住・定着に向けて、人口減少や過疎化などの課題を抱える地方自治体が、都市の住民を受け入れ、各種の地域協力活動に従事してもらう取組	道内で合計 157 市町村 (R4 年度) <sup>※1</sup>
福祉のまちづくりに積極的な自治体	町の総合計画等において、福祉を重点施策として位置づけている	奈井江町、和寒町、池田町、京極町、沼田町、更別村等
福祉分野における学生への情報発信等に取り組んでいる自治体	域内外の学校と連携し、福祉施設における職場体験授業の実施や、学生と介護事業所との意見交換会の実施、福祉分野の学生を対象とした地域体験プログラムの実施	洞爺湖町、安平町、森町、網走市、枝幸町、剣淵町、白糠町、余市町、栗山町、月形町、沼田町、新得町、新得町、芽室町、本別町、平取町、新ひだか町等
重層的支援体制整備事業に取り組んでいる自治体	地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、市町村において、属性を問わない相談支援、参加支援及び地域づくりに向けた支援を一体的に実施する取組	旭川市、七飯町、妹背牛町、鷹栖町、津別町、厚真町、音更町、鹿追町、広尾町、幕別町 (R5 年 12 月時点) <sup>※2</sup>

※1 出典：北海道資料

※2 出典：厚生労働省資料

## (2) 次年度の実証に参加意欲のある地域

自治体向けアンケート調査等を実施した結果、次年度の実証に参加する意欲のある関係機関や自治体の所在地域は下記の通り。

所属振興局	意欲のある地域
宗谷総合振興局	利尻町、中標津町
日高振興局	浦河町、えりも町
胆振総合振興局	伊達市、安平町、白老町
渡島総合振興局	八雲町
後志総合振興局	京極町、喜茂別町、小樽市、倶知安町、共和町、黒松内町、黒松内町
空知総合振興局	夕張市、奈井江町、岩見沢市
上川総合振興局	和寒町、富良野市
根室振興局	別海町
オホーツク総合振興局	遠軽町、津別町
十勝総合振興局	大樹町、更別村
釧路総合振興局	釧路市、浜中町
留萌振興局	遠別町
石狩振興局	新篠津村